

2017年度調査研究事業

女性の労働に関する調査研究事業 シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査報告書

とよなか男女共同参画推進センター
(指定管理者 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団)
女性の労働に関する調査研究事業研究会

2018年3月

■目次■

I. はじめに	p.1
II. グループインタビュー調査の実施概要	p.2
III. グループインタビュー調査の結果	p.4
IV. グループインタビュー調査の結果の考察・まとめ	p.10
V. すてっぷの今後の取組みとして	p.12
VI. 提言に向けて	p.12

附属資料

・女性の労働に関する調査研究事業研究会のメンバーと経緯	p.14
・グループインタビュー時のワークシート記入内容 (25～39 歳グループ)	p.15
・グループインタビューのテープ起こし (25～39 歳グループ)	p.17
・グループインタビュー時のワークシート記入内容 (40～54 歳グループ)	p.27
・グループインタビューのテープ起こし (40～54 歳グループ)	p.29
・グループインタビュー時に使用したワークシート原紙	p.39
・グループインタビュー協力者事前確認シート原紙	p.41

I. はじめに

女性の就労支援は、豊中市男女共同参画計画でも重点的に取り組む市の施策の一つである。すてっぷでも、重点課題として以前から指定管理事業や受託事業として取り組みを続けている。調査研究事業においても以下のテーマで取り組んできたが、そのおもな対象は既婚女性や子育て中の女性（シングルマザー含む）であった。

- ・女性の就労に関する意識調査アンケート結果の報告書（2010 年）
- ・女性の労働に関する調査研究事業 2011 年度調査報告書－働く女性のヒアリング調査（2011 年）
- ・「女性就労の支援事業研究会」報告書（2013 年）
- ・地域人づくり事業を通じた女性の再就職について（2014 年、2015 年）

2016 年 3 月に発表された「非正規職シングル女性の社会的支援に向けたニーズ調査報告書」（公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会）は、これまで就労支援の対象として見過ごされてきた女性たちに焦点を当てた初めての調査として、大きなインパクトを伴って注目を集めた。すてっぷにおいても、2014 年度より交流とエンパワメントを目的にした若年女性支援事業に取り組む中で、参加者から仕事や暮らしの強い不安を聞くことや、50 代シングル女性から参加希望の問合せを受けることもあった。また、女性の生涯未婚率が右肩上がりに増え、豊中市においても単身世帯が全世帯の 3 分の 1 を超える現状がある。今後、増化と高齢化が見込まれるシングル女性の実情を具体的に把握することが、これからの事業展開を考える際に必要であるという観点から、豊中市在住在勤の未婚女性を対象にした仕事と暮らしのニーズ調査を行うことを決めた。

2016 年度は、現状把握のため先行研究などを調べ、調査対象や調査方法を検討した。2017 年度は、6 月の男女共同参画週間事業で 50 代シングル女性の生き方をテーマに講演会を実施した際、その場で参加者に調査研究事業の協力を呼びかけた。8 月には、2 つの年齢層（25～39 歳・40～54 歳）で各 5 人の協力者によってグループインタビュー調査を行った。その結果、年齢層による共通点や相違点があり、同じ年齢層でも現在の雇用形態や家族と同居か一人暮らしかなど、各々の背景によって感じ方も様々であることがわかった。

確かに、今回のグループインタビュー調査結果は少人数の 1 回きりであり、一般化や普遍化して述べることは難しい。しかし、同じ様な境遇の人に共感してもらえる結果が得られたと思う。また、協力者の多くが今回のグループインタビューの参加自体を肯定的に捉え、仕事や暮らしという真面目な話題について話し合う行為を意味あることだと語っている。このことから、当事者のエンパワメントや問題解決のヒント、多様な観点で物事を見ることの必要性、同じような境遇や問題関心を持つ人々が集まる場、話し合える場づくりをこれからの事業として検討していきたい。

他方、場づくりで語られ明確になった課題を市の施策や社会の問題として取り組むことも必要である。その実現のためには、すてっぷの取り組みに加えて行政や地域など他機関連携が不可欠である。

最後に、今回の調査にご協力いただいたみなさまには厚く御礼申しあげると共に、他市在住のため協力をお断りしたみなさまやこの報告書をご覧になったみなさまには、率直なご意見や今後の事業にご参加をいただければ幸いである。

2018 年 3 月

Ⅱ. グループインタビュー調査の実施概要

1) 調査目的

豊中市における子どものいない未婚女性の仕事と暮らしの現状を把握し、単身のままで生きるのにどのような課題があるかを発見することを目的として調査を実施した。

2) 実施概要

i) 調査方法決定のプロセス

まず、アンケート調査とインタビュー調査を目的や実施可能性などの観点から検討し、共通点のある調査協力者が出会い、お互いに話し聞くことを通して、調査協力者自身の課題理解にもつながることからグループインタビューを調査方法として選んだ。

ii) 協力者決定のプロセス

以下の手順でグループインタビュー協力者を決定した。

- ①グループインタビューの対象は、豊中市在住もしくは在勤の未婚女性とした。また、若年層と中年層で感じている課題の特徴を捉えるため、年齢階層を 25～39 歳・40～54 歳の 2 つに区分した。
- ②グループインタビュー協力者募集を、6～7 月にかけて以下のように行った。
 - ・講演会『『魂の退社』から 1 年～50 歳・シングル・無職という冒険』の中で参加者に呼びかける
 - ・若年女性対象講座「気持ち伝わるコミュニケーション講座」と「スイーツづくり講座」の中で参加者に呼びかける
 - ・チラシ配布（市内公共施設）
 - ・広報とよなか掲載（2017 年 8 月号）
 - ・すてっぷホームページ掲載
- ③グループインタビュー協力者の応募が、25～39 歳で 5 人、40～54 歳で 8 人あった。メール、電話でグループインタビューの日程、会場などを連絡し、参加の可否を再度確認した。（40～54 歳の応募者で豊中市在住もしくは在勤ではない人には対象外であるとお断わりした）
- ④参加の承諾を得た 25～39 歳の 5 人、40～54 歳の 5 人を協力者として決定した。

iii) 実施方法

協力者へ事前確認の書類を郵送、メール添付、手渡しで届け、あらかじめグループインタビューの目的、結果のまとめ方、個人情報の保護などについて伝えた。グループインタビュー当日、調査目的や進め方などを記載したグループインタビュー協力者事前確認シートを調査者が読み上げ、説明し、協力者の同意を得た確認としてシート 2 部に署名をしてもらい、協力者とすてっぷで 1 部ずつ保有した。

座席配置は、協力者と調査者が島型テーブルにつく形にした。インタビューのガイドラインを説明した後、グループインタビュー時に使用するニックネームを各自で決めてもらった。その後、ワークシートを用いて「現在、未婚であることの長所と短所」と「10 年後の理想とその理想に近づけるために何があったらいいか」について、協力者の話し合いを聴き取った。

◆配布物と進め方

配布物 (25～39 歳)	・調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」25～39 歳のグループインタビューにご協力いただく方へ（事前確認） ・調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」グループインタビュー（25～39 歳）
配布物 (40～54 歳)	・調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」40～54 歳のグループインタビューにご協力いただく方へ（事前確認） ・調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」グループインタビュー（40～54 歳）
配布物 (共通)	・ワークシート 1「あなたの現状について」 ・ワークシート 2「10 年後の自分（ 歳）を想像してみる」
進め方	・グループインタビューの目的を説明 ・グループインタビューのガイドラインを説明 ・グループインタビュー協力者事前確認シートによる協力の同意確認 ・協力者にニックネームを考えてもらい、自己紹介代わりに、なぜそのニックネームを付けたのかを説明してもらう ・ワークシート 1 の説明後、協力者が各自記入 ・ワークシート 1 の記入内容を元に意見交換 ・ワークシート 2 の説明後、協力者が各自記入 ・ワークシート 2 の記入内容を元に意見交換 ・まとめ（出た意見・出なかった意見の確認、参加した感想） ・今後のスケジュールを確認 （テープ起こし原稿・報告書案の確認、報告書の完成時期） ・謝礼品（図書カード）を贈呈

※配布物の詳細は附属資料を参照

iv) 実施状況

年齢階層別に各 1 回のグループインタビューを実施し、計 10 人が参加した。

◆実施日時・人数・会場

年齢階層	実施日時	実施人数		実施会場
		協力者	調査者	
25～39 歳	2017 年 8 月 27 日(日) 10:30～12:30	5 人	2 人	とよなか男女共同参画 推進センターすてっぷ
40～54 歳	2017 年 8 月 20 日(日) 10:30～12:30	5 人	2 人	
計 2 回		10 人		

Ⅲ. グループインタビュー調査の結果

1) 25～39 歳のグループ

①インタビュー協力者の属性

ニックネーム		レモン	もも	みかん	みたらしちゃん	チョコ
年齢		29 歳	33 歳	33 歳	26 歳	31 歳
就労状況		無職（求職中）	正規雇用	非正規雇用（パート・アルバイト）	正規雇用と非正規雇用（アルバイト）の兼業	正規雇用
勤続年数		—	1 年以上 5 年未満	—	5 年以上 10 年未満	—
平均的な労働時間	日	—	8 時間くらい	6 時間	—	—
	週	—	5 日（40 時間）	5 日（30 時間）	正規 5 日（時間不明）、アルバイト 1 日（時間不明）	—
同居者の有無		家族と同居	1 人暮らし	家族と同居	1 人暮らし	1 人暮らし
家族状況		両親ときょうだい（同居）	親と弟（地元・豊中市外）	両親（同居）	—	親（地元・豊中市外）

②今の自分に対して満足している点

a) 暮らし

- ・自分の自由な時間が多い
- ・時間を自分のペースで使える
- ・働いたお金を自分のためだけに使える
- ・好きな物を好きなタイミングで食べられる
- ・一人暮らしの気楽さ、気まま（誰かに文句を言われない）

b) 仕事

- ・＜正規＞好きなだけできる
- ・＜正規＞今の部署は残業が少ない
- ・＜非正規＞正社員より気楽に働ける気がする
- ・＜求職中＞転職活動に時間を費やすことができる

c) 人間関係

- ・友達（未婚）とも会える
- ・＜同居＞近くにいてくれる家族に心の悩みなどを気兼ねなく話せる

③今の自分に対して不満な点や不安や悩み

a) 暮らし

- ・独身でいることが自分の悪いところ（コンプレックス）
- ・独身であることを申し訳なく思う（社会や親に対して）

- ・ 幸せそうな家庭を築いている人を見るとうらやましく思う
 - ・ 渡したご祝儀を計算してへこむ
 - ・ 結婚している人と比較して、みじめな気持ちになる
 - ・ 早く子どもが欲しい
 - ・ 一人暮らしで体調が悪くなったとき
 - ・ 一人で生きていくための資金面
 - ・ 定年後の生活や老後に不安
- b) 仕事
- ・ <正規>長時間労働
 - ・ <正規>職場で子どものいる人は優遇されるが、自分への配慮はない
 - ・ <正規>仕事が続かない
 - ・ <正規>今の働き方に慣れていると、結婚後の子育てが始まったら（仕事が）制限される
 - ・ <非正規>仕事がいつも同じでマンネリ化
 - ・ <非正規>人間関係が上手く築けないので社員へ踏み出せない
- c) 人間関係
- ・ いつも 1 人（頼れる人が周りにいない）
 - ・ 友達との会話のズレ
 - ・ 既婚や子どものいる人と話が合わない
 - ・ 人が怖い
- d) その他
- ・ 親の介護が必要になった時に仕事と両立できるか
 - ・ 成長できていない

④10年後の理想の自分

- a) 暮らし
- ・ 健康でいたい
 - ・ 人と比べず自分を肯定できる
 - ・ 結婚して子どもがいる（大切に思える人がいる）
 - ・ きれいな家に住んでいたい、家はキレイに片付いている
 - ・ 自分の大好きなことを見つけて、それが生きがいになっている
 - ・ 一人でできる趣味とみんなでできる趣味
- b) 仕事
- ・ <非正規&求職中>正社員として働く
 - ・ <正規>仕事を続けている
 - ・ <正規>給料アップ
 - ・ <正規>責任は増えているが、人材教育に力を入れる
- c) 人間関係
- ・ 親が元気
 - ・ 親友がいる
 - ・ 子どもを介して地域のママ友やコミュニティに参加
 - ・ 地域の人とのつながりがあるといい
- d) 現実を理想に近づけるために必要なコト、モノ、ヒトなど
- ・ 自分自身に必要（健康、お金・マネープラン、やる気、勇気、自信、生きがい、結婚相手、40代以上でシングル女性のポジティブなロールモ

デル)

- ・暮らしに必要（住居、地域とのつながり、困った時の相談相手）
- ・仕事に必要（やりがい、理解ある上司や同僚、効率よくする、独身者に負担がない仕事配分）
- ・人間関係に必要（友だち、出会い、地域で気軽におしゃべりできる場）

⑤グループインタビューに協力した感想

- ・話が聞けて良かった（自分だけの問題ではない、考え方の幅が広がった）
- ・率直に話すことで自分自身の思いを確認できた
- ・機会があったらまた参加したい（気が楽になった、楽しかった）

2) 40～54 歳のグループ

①インタビュー協力者の属性

ニックネーム		すずめ	まぐま	やまびー	ほしちゃん	なお
年齢		52 歳	50 歳	46 歳	45 歳	42 歳
就労状況		自営・フリーランス	非正規雇用（非常勤）と自営・フリーランスの兼業	正規雇用	正規雇用	無職(2017 年 5 月末まで契約社員として勤務)
勤続年数		10 年以上 15 年未満	10 年以上 15 年未満	20 年以上	10 年以上 15 年未満	—
平均的な労働時間	日	—	非常勤…7.5 時間	11 時間	7.5 時間	—
	週	—	非常勤…4 日（30 時間） 自営…20 時間以内	5 日（55 時間）	5 日（37.5 時間）	—
同居者の有無		1 人暮らし	1 人暮らし	1 人暮らし	1 人暮らし	家族と同居
家族状況		両親は他界、男きょうだい	母は他界、父と姉（近くに住む）	親（近くに住む）、妹（既婚・遠方に住む）	父は他界、母（近くに住む）	母（同居）、きょうだい（遠方に住む）

②今の自分に対して満足している点

a) 暮らし

- ・自分だけのためにお金も時間も使える
- ・好き勝手、自由気まま、他人に気を遣わず生きていられる
- ・誰にも邪魔されない生活
- ・行動範囲が広い
- ・何でも一人でする（できる）ようになった
- ・一人暮らしだが実家が近く家族と協力体制ができている

- ・両親共に他界しているので介護の心配はない
- b) 仕事
 - ・＜自営・フリーランス＞自分のやりたいように仕事ができる
 - ・＜非正規と自営・フリーランス＞自分がやりたい！と思う仕事ができおり充実している
 - ・＜正規＞有休も取得可能で残業もほとんどない
- c) 人間関係
 - ・独身の友人と自分の都合の良い時に会える
 - ・ムリして付き合わなくていい（ママ友とか）
 - ・特に問題はない

③今の自分に対して不満な点や不安や悩み

- a) 暮らし
 - ・健康問題についての不安
 - ・病気になった、入院したときのこと（手術の同意書をどうするか）
 - ・老後が不安（健康、老化）
 - ・親の介護
 - ・（親が亡くなって）ひとりぼっちになってしまう
 - ・（シングル女性は）社会的に認められていない気持ちになる
 - ・（シングル女性への）公的助成の少なさ
- b) 仕事
 - ・＜自営・フリーランス＞思うように仕事が取れない
 - ・＜非正規と自営・フリーランス＞収入がなかなか増えない
 - ・＜正規＞給与が年齢とともに上がるかどうか分からず不安
 - ・＜正規＞一人で何でもできると思われあまり助けてもらえない
 - ・＜正規＞仕事をふられやすい
- c) 人間関係
 - ・孤立感、誰にも頼れない、つながりが強くなくむなしさを感じる
 - ・一人暮らしでは地域との関わりは難しい
 - ・地域との関わりが少ない、地域が「家族」を基本と考えているので（シングルでは）参加できない
 - ・老後が不安（人間関係）

④10年後の理想の自分とそれを実現させるには

- a) 暮らし
 - ・今より少しでも良い暮らし
 - ・何か生きがいをもつ
 - ・趣味を広げる
 - ・活動的である
 - ・お金が貯まっている
 - ・シングル女性も安心して老後を暮らしていける世の中
 - ・気の合うシングルの女友達とホームシェアして暮らす
 - ・頼れるパートナー、共に暮らすパートナーが欲しい
- b) 仕事
 - ・＜自営・フリーランス＞在宅でできる仕事が増えている

- ・ <正規>仕事を続けられている
- ・ <非正規と自営・フリーランス>非正規でもボーナスがもらえる
- ・ <求職中>中高年を積極的に雇用する会社が増えて年金以外に収入を得ることができる

c) 人間関係

- ・ 実家の家族も長生きで健康
- ・ 将来のことについて話し合える友人とつながる

d) 現実を理想に近づけるために必要なコト、モノ、ヒトなど

- ・ 自分自身に必要な（健康、お金、生きがい、運動習慣、弱音が言える、ムダ使いしない）
- ・ 暮らしに必要な（不安を相談できる場、家族の健康、独身者への助成、手術の同意書のしほりをゆるく）
- ・ 仕事に必要な（やりがい、理解ある上司や同僚、効率よくする、独身者に負担がない仕事配分）
- ・ 人間関係に必要な（今の友人とのつながり、もっと深いつながり、コミュニティ、独身者や同世代が集える場、いろんな人が集える街の再開発）

e) 社会への批判的なまなざし

- ・ 正規と非正規の格差（賃金・昇進機会）はおかしい
- ・ 国の施策や社会で想定される働く女性にシングル女性が入っていない
- ・ 非正規シングル女性が安心して暮らせる国の施策を（社会保障費の負担軽減）

⑤グループインタビューに協力した感想

- ・ 自分だけじゃない（不安なことを共有できて良かった）
- ・ 本音で話せた（自分自身の思いに気づけた）
- ・ もっと話したい（すてっぷで連続講座を）

3) 25～39歳のグループと40～54歳のグループの共通点

- ・ 満足している点よりも不満や不安な点の方が多い
- ・ 現在の満足内容：自由（時間やお金などの使い方や精神的など）
：人間関係（好きな相手とだけ付き合える）
- ・ 現在の不満や不安内容：病気や入院時の不安
：親の介護
：孤立感
- ・ 10年後に理想の自分であるための必要なコト、モノ、ヒトなど
：自身の健康
：生きがい
：友だち
：地域とのつながり（気軽に話せる場）

4) 25～39歳のグループと40～54歳のグループの相違点

- ・ 25～39歳のグループのみで出た意見
→現在の不満や不安内容：結婚していない自分
：子どものいない自分

- ：仕事（正規の長時間、非正規のマンネリ化）
 - ：人間関係（既婚の友人との会話のズレ）
 - ：将来への漠然とした不安
- 10年後に理想の自分であるための必要なコト、モノ、ヒトなど
 - ：結婚相手
 - ：自身の意欲（自信、やる気、勇気）
- ・40～54歳のグループのみで出た意見
 - 現在の不満や不安内容：自身の定年後や老後（自身の健康、お金、人間関係）
 - ：地域との関わりが少ない
 - 10年後に理想の自分であるための必要なコト、モノ、ヒトなど
 - ：生活を支え合うパートナー（同居を問わない）あるいは生活の一部を委ねられる信頼できる他者
 - ：シングル女性が安心して暮らせる世の中
 - ：シングル女性への支援制度（経済的、不安の相談など）

IV. グループインタビュー調査の結果の考察・まとめ

1) グループインタビュー調査の結果の考察

①満足を感じるのは自由度の高さ

- ・未婚女性の自己認識として、満足を感じるのは物理的・経済的・時間的・精神的な自由である。家族と同居と一人暮らしとを比較すれば、一人暮らしの方がより自由度が高いと感じている。この傾向は、2つの年齢層とも共通している。
- ・自由であることに高い価値を置くのは、自分らしく生きることによって価値を見出していることだと考えられる。

②多岐にわたる不満や不安は現在だけでなく将来で更に強まる

- ・自身の現状に不満や不安を感じない人は1人もいなかった。不満や不安の内容は多岐に渡り、収入の少なさ、雇用の不安定さ（正規・非正規とも）、自身の健康、親の介護、孤立した老後イメージなどである。
- ・このことは、社会保障や福祉などの法制度が家族単位で規定されているため、単身者をフォローするものではないと認識されているからだと思われる。
- ・将来に対する不安が強いのは世代を超えて共通しているが、25～30歳のグループはイメージ先行で、40～54歳のグループの方がよりリアルで具体的な不安を述べている。
- ・その差は、想定している将来と現在の自分との距離感の差だと考えられる。

③40歳を境に大きく異なる結婚観

- ・25～30歳のグループでは、自らの未婚という現状を否定的に捉えている人が多かった。
- ・これは、社会や家族だけでなく若い本人自身も「女性は結婚し子どもを持つのが当たり前」という根強いジェンダー規範に囚われていることに他ならない。
- ・40～54歳のグループでは、「女性は結婚し子どもを持つのが当たり前」という意識は強くなく、自らの未婚という現状を肯定的に捉えている人が多かった。
- ・グループインタビューの中で明確に語られてはいないため推測になるが、40～54歳のグループの人たちが20～30代の時点でも今と同じ自己認識だったとは思えない。40歳を過ぎて、出産の可能性が減少していく更年期という身体変化の過程で自己受容していることの影響だとと思われる。

④家族の状況が本人の暮らしに与える影響

- ・協力者の多くが、親やきょうだいの介護を自分が担うと認識していた。同時に自分一人で介護を担うことはとても難しいと感じ、仕事と介護の両立やそのために利用できる支援や制度などを知らないことも不安を強める一因であった。
- ・家族が亡くなって一人きりになった時、頼る人のいないことを不安に感じる人もいた。
- ・単身者が病気やケガで手術や入院が必要になった時、医療機関や行政がどのように対応するのかを知り、傾向と対策を考える機会が必要である。

⑤つながりたい気持ちと地域の高いハードル

- ・地域とつながりたい協力者は複数いた。しかし、地域活動に関わるきっかけがない、子ども向けの行事が多い、自治会に入ることによって生じる義務を果たす時間

も自信もないなど、地域と関わることへのハードルが高いと感じている。

- ・地域活動はこれまで多岐に渡る内容を世帯や家族単位で日中に行っており、仕事で地域を離れている单身者には、関わりたい気持ちがある一方で時間的制約や引き受けられる範囲を超えて責任を担うことへの躊躇もある。両者を仲介し相互理解を促す人や場が必要である。

2) まとめ

①協力者の発言から様々な課題を発見

- ・子どものいない未婚女性の仕事と暮らしの現状を把握し課題を発見するのが、今回の調査の目的である。年収や学歴、初職の雇用形態、現在の職場での職種や職階・住居費の負担額などの個人情報問わなかったため、現状把握として不十分であることは否めない。しかし、様々な課題を発見できた。

②女性に課せられているジェンダー規範

- ・女性に課せられている「産む性」というジェンダー規範があり、そのジェンダー規範を他者から押し付けられ、また自分自身でも内在しているのは年齢に関係ないと考えていた。確かに、25～39歳のグループでは5人中4人がジェンダー規範の囚われから未婚である現状を否定的に捉えていた。しかし、40～54歳のグループでは未婚であることを肯定的に受け止めており、ジェンダー規範から自由になれている。
- ・親やきょうだいの介護という「ケア役割」も女性に課せられているジェンダー規範の1つである。これについては、年代を問わず共通して自分の役割として受け止めている。現時点では親やきょうだいケアを必要としていない場合、ケアは未経験であり、未経験ゆえに重い負担のイメージだけが先行し、不安を増している。
- ・雇用労働の現状として、パートなどの非正規労働が女性に偏る問題、正規労働でも女性は低賃金などの問題がある。これらの問題は、固定的な性別役割分業意識を背景にしたジェンダー規範の表れである。女性の労働問題が問題として扱われにくいのは、日本社会がジェンダー規範を無意識の前提としているからに他ならない。例えば、世帯単位の社会保障や税制度は「男性が世帯主」という前提で男性の賃金を家族を養える金額として規定し、世帯主でない女性は夫がいるという前提で補助的な稼ぎ手として位置づけられる。その結果、女性全体が低賃金や非正規での働き方を選ばざるを得ない状況となり、あたかも本人の意思でそれを選択したかのように認識されてしまう。その中で、未婚女性は世帯単位の社会保障などの制度から取りこぼされ、職場ではケア役割を免れた自由の利く使い勝手の良い労働者として認識されてしまう。

V. すてっぷの今後の取組みとして

自分らしく生きることを肯定するための支援

- ・現在の 40～54 歳の未婚女性は、一定数を占める新たな集団としての先陣を切る。ロールモデルはなく、自らが後継世代のモデルとなる。不満や不安を抱えながらも、自分らしい生き方を模索しようとする気持ちを支援するために、同じ状況にある人と出会い、率直に語り合える場や社会に対して発言する支援が必要である。
- ・現在の 25～39 歳の女性に対しては、ジェンダー規範に囚われて結婚しない自分を責める必要はないと伝え、自己肯定感を高める支援が必要である。
- ・多くの人がイメージするシングル女性のロールモデルは、まだ限定的で多様性をリアルに感じにくいのではないかと。しかし、年齢を重ねても社会や地域とつながって自分らしく生きている市民が実際にいるのを見過ごしているだけかもしれない。すてっぷとしては、今後、シングル女性との関わりを広げ、女性の多様な生き方を肯定するメッセージの発信や、シングル女性が自ら生きやすい社会づくりに参画する取組みも必要である。

VI. 提言に向けて

未婚女性や単身女性も安心して暮らせ働ける豊中市に

- ・市の施策に位置づく住宅、医療、福祉などの担当部署において、未婚女性や単身女性のニーズを把握する。そのためには、市が実施する調査や統計において、未婚女性や単身女性で抽出できるようにする必要がある。また、未婚女性や単身女性が制度や支援から除外されていないか、また利用しやすい状況が整っているかを確認し、整っているのであればその情報を積極的に周知する。
- ・地域活動の担当部署においては、未婚女性や単身女性も関われるよう体制や運営を見直すなど、地域に働きかける。
- ・もっと詳細に現状把握を行うには、未婚女性や単身女性を対象にした広範囲のアンケート調査が必要である。しかし、すてっぷだけでそれを実施することは難しく、市の施策の一環としての取組みを希望する。また、単身者の問題は未婚女性に限らない。離婚や死別のシングル女性、未婚男性の調査なども同様である。
- ・自分の価値観は自分のものであるが、他人と比べたり他人に押し付けるものではない。職場、地域、学校などでジェンダー規範や固定的な性別役割分業意識の囚われから自由になることを学ぶ機会を設ける。

附 属 資 料

■女性の労働に関する調査研究事業研究会のメンバーと経緯

1) メンバー

古久保さくら（大阪市立大学准教授）

とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ（指定管理者 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団）

林誠子（理事長）、西村寿子（事務局長）、梅山雅子（相談主任）、
小河洋子（講座主任・事務局）、藤長恵子（事務局）

2) 経緯

年度	研究会	実施日時	議題など
2016 年度	第1回	2016年12月19日 (月) 10:00～12:00	報告…『『非正規・シングル・子なし・中年女性』の取材を通して』花房吾早子（朝日新聞記者） 協議…調査目的、調査方法と進め方、スケジュールの検討
	第2回	2017年2月20日 (月) 14:00～16:00	協議…調査内容の確認 …アンケート調査の調査票項目を先行研究から検討 …「若年女性のケイパビリティの形成と社会的包摂のあり方に関する研究」チームとの調査協力や共同調査についての検討
	第3回	2017年3月18日 (土) 13:30～15:35	協議…調査方法の見直し …新たな調査プランの検討
		2017年3月31日	中間報告書発行
2017 年度	第4回	2017年5月9日 (火) 13:00～15:00	確認…調査内容（タイトル、目的、対象） 協議…調査方法（グループインタビューの構成人数、グループ分けの基準、協力謝礼など）
		2017年6月20日 (火) 11:00～13:00	模擬調査…25～39歳の未婚独身女性職員（3人）を協力者に見立て、本調査同様の進行で模擬グループインタビューを実施
		2017年6月24日 (土) 14:00～16:00	協力呼びかけ…男女共同参画週間事業講演会『『魂の退社』から1年』（講師：稲垣えみ子）の参加者に対し、調査研究事業の調査の趣旨を説明のうえ協力希望者はアンケート用紙への連絡先記入を呼びかけた
	第5回	2017年7月4日 (火) 13:00～15:00	報告…模擬調査の結果と課題 協議…模擬調査から明らかになった課題の改善方法、本調査実施後のスケジュールなど
		2017年8月20日 (日) 10:30～12:30	本調査・グループインタビュー（40～54歳）
		2017年8月27日 (日) 10:30～12:30	本調査・グループインタビュー（25～39歳）
		2017年9月	グループインタビューをテープ起こした原稿を協力者に郵送し、内容の確認（間違いや個人的に削除したい部分の有無）
	第6回	2017年10月26日 (木) 13:30～15:10	報告…本調査のグループインタビュー結果（テープ起こした資料）と協力者への確認状況 協議…インタビュー結果から明らかになったこと、報告書の体裁など
	第7回	2018年1月5日 (金) 13:20～14:40	報告…報告書案（グループインタビュー結果の部分） 協議…報告書の作成部数・構成・執筆分担、グループインタビュー結果部分の内容など
		2018年3月	報告書印刷・発行

■グループインタビュー時のワークシート記入内容（25～39 歳グループ）

1) ワークシート 1・未婚女性である、今の自分（ 歳）について思うこと

	仕事（雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など） 暮らし（健康、衣食住、地域との関わり、趣味など） 人間関係（家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など）など	
	肯定的・長所・ポジティブ・満足	否定的・短所・ネガティブ・不満・不安・悩み
レモン (29 歳)	・転職活動に時間を費やすことができる ・好きな物を好きなタイミングで食べることができる ・親、きょうだいが近くにいてくれることで、心の悩みや不満も気兼ねなく言うことができる ・時間を自分のペースで使える ・自分のことを中心に考える	・転職の進捗を伝えることに少しプレッシャーを感じる ・テレビを観る、昼寝をするなどの休憩を自由に取りにくい ・親の介護（仕事に就いた時、両立できるか）や、自分の老後に不安 ・友達との会話のずれ ・成長できていない
もも (33 歳)	・正規雇用の仕事がある ・今の部署は残業が少ない ・親がまだ元気、弟が地元にいるので安心 ・友だちも未婚の子がいるので会える ・自由が多い（住むところ、お金、時間）	・自分の体調が悪くなったとき、困ったとき ・親に介護が必要になったとき ・定年した後の生活 ・既婚や子どもがいる人と話が合わないところがある ・子どもがいる人が大事にされている気がする
みかん (33 歳)	・自分の自由な時間が多い ・正社員より気楽に働ける気がする ・他人と共にくらす事で、人間関係の問題が出てくるのでそのわずらわしさはない	・将来への不安 ・一人で生きていくための資金面が不安 ・人間関係が上手く築けないので、社員へ踏み出せない ・幸せそうな家庭を築いてる人を見るとうらやましく思う ・仕事がいつも同じで、マンネリ化してる。できればもっといろいろな仕事ができるようになりたい
みたらしちゃん (26 歳)	・一人暮らしの気楽さ	・仕事時間が長い ・仕事プレッシャー ・昔痛めた所が出てきたらもう働けない ・老後 1 人で生きていくお金がない ・友達がいない ・いつも 1 人 ・すぐつかれる ・HP S 体質*でつかれる 【*は p18 に説明あり】 ・仕事が続かない ・人がこわい ・人がギスギスしていてつかれた ・人に渡したご祝儀を計算して、へこむ
チョコ (31 歳)	・仕事は時間にゆとりがあり、好きなだけできる ・土日の研修なども、自分の都合に合わせて参加ができる ・働いたお金を自分のためだけに使える ・1 人暮らしなので、気ままに過ごせる ・1 日中、好きなことをしていても文句を言われない ・好きなことを好きなだけできる	・今の働き方に慣れてしまったら結婚後、子育てが始まった時に制限がある、しんどさに負けないか… ・独身であることが、申し訳なく思う ・独身でいることが、自分の悪いところとも思う（コンプレックス） ・早く子どもが欲しいと思う ・結婚している人と自分を比較して、みじめな気持ちになる ・変わらなきゃと思う

2) ワークシート2・10年後の自分（ 歳）を想像してみる

	仕事（雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など） 暮らし（健康、衣食住、地域との関わり、趣味など） 人間関係（家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など）など	
	理想	現実を理想に近づけるのに あったらいいコト・モノ・ヒトなど
レモン (29 歳) ↓ (39 歳)	・正社員として働き、自分の力を発揮できる環境にいる ・自分の好きなことの幅を広げる。チャレンジする ・人と比べず自分を肯定できる	・自分の良さを発見できる、再確認できる場所 ・未婚の方に負担がかかりすぎない職場
もも (33 歳) ↓ (43 歳)	・安定した仕事を続けられてたら＋やりたいことができてたら ・健康でいたい ・地域の人とのつながりもあるといい ・これという趣味があるといい ・親が元気でいたら ・ともだちとのつながりもあるといい ・一緒に何かできる人がいるといい	・お金 ・ともだち ・家 ・弟が実家にいてくれたら
みかん (33 歳) ↓ (43 歳)	・正社員として働いてる。もしくは、素敵な男性と出会って結婚してる ・何かの才能に目ざめて大金持ちに ・人間関係を円滑にできるスキルを持って、上手くやっている ・自分の大好きな事を見つけて、それが生きがいになってる ・親友がいる ・大切に思える人がいる	・出会い ・生きがい ・やる気 ・才能 ・人と関わろうとする勇氣
みたらしちゃん (26 歳) ↓ (36 歳)	・仕事続けられたらいいな ・給料UP ・病気もせず健康 ・家はキレイに片づいてる ・一人でできる趣味とみんなのできる趣味 ・貯金がたまりだしてる ・自分が強くなって、ふつうに人とせっしたい ・トラブルもなくすごしたい ・友達はあるにたくさん ・毎日、生存確認できる人がいる ・フツウの暮らしで生きのびる	・仕事を効率よくする ・貯金してみたい ・ジムに行く時間をつくる ・トレーニングを毎日する ・老人会のような、何げない会話が できる所があればいいな ・気がるにあつまっておしゃべりする 場がほしい ・やる気を身につける ・出会い ・勇氣
チョコ (31 歳) ↓ (41 歳)	・仕事は責任が増えているが、人材教育に 力を入れながら、自分の思いが実現できる ようになっていたい ・結婚して、子どもが2人いて、毎日にぎやか ・きれいな家に住んでいたい ・子どもを介して、地域でのママ友やコミュニティに参加することも楽しんでいた ・孫に会うことを生きがいの1つにしている と思うので、できるだけいっぱい過ご したい ・“ママ”としての先輩たちからいろんなア ドバイスもらって、子育てを大変だけ ど楽しんでいた ・たまには子をあずけて、夫と2人でデート したい	・職場の理解（人間関係のよい職場） ・やりがい ・いいネ ・住居と生活力 ・健康であること ・友人関係 ・自信

■グループインタビューのテープ起こし (25~39 歳グループ)

①ワークシート1に記入

小河（以下小）：どうでしょう？ 8 分くらい経ちましたが、まだまだ書き足りない感じですか？ 一旦ここで切っても大丈夫ですか？ まず肯定的な面に書いたことを1人ずつ言っていただきたいと思います。さっきレモンさんからしたので、今度はももさんからスタートしていいですか？

もも（以下も）：私は正規雇用で仕事をしているのですが、今の部署は残業が少ない。親がまだ元気で、弟が地元にいるので、こっちで1人暮らしをしていても安心できる。友達にも未婚の子がいるので、気楽に会える。1人なので、遊ぶところやお金や時間など、縛られるものがないので自由が多いかなということを挙げました。

小：はい、大丈夫ですか？

みたらしちゃん（以下た）：かぶってるんですけど、いいですか？

小：いいですよ、かぶっていても。

た：ネタが1個しかないんで。

小：全然、大丈夫ですよ。

た：1人暮らしの自由さ。

小：うん。はい、じゃあチョコさん。

チョコ（以下チ）：私も同じような意見で、仕事に関しても、自分1人なので時間にゆとりがあって、好きなだけできるということです。土日の研修に参加したり、今週は仕事が溜まってしまったから、ちょっと土日に職場に行って片付けようかというように、土日の使い方も自分の都合だけで決められるということ。働いたお金を、自分のためだけに使える。時間もお金も好きに使える、ということです。1人暮らしなので、本当に気ままに過ごせるということでは、1日中好きなことをしていても、誰にも文句を言われない、ということ

考えました。

小：ありがとうございます。はい、じゃあ、みかんさん。

みかん（以下か）：ほとんど一緒なんですけど、私の場合は非正規なので、休みが比較的取りやすいのと、結婚していないので嫁姑問題みたいなこともない。結婚している子話を聞くと、お姑さんのところに月1回くらいは行かないといけないわけじゃないけど、やっぱり気を遣うということで、そういう面がないのはいいかなと。以上です。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、レモンさん。

レモン（以下レ）：私も同じなのですが、自分の時間とか自分のやりたいこととかを中心に考えて、生活できることが良いところかなと思っています。私の場合は実家で生活しているので、ちょっとした悩みとか、ふっと沸き上がった不安とかを、自分だけのものにせず、親やきょうだいに聞いてもらえる。結婚していて嫁姑などの関係があると、自分のこと以外の関係も考えないといけないのですが、結婚していないので、自分と家族のことを中心に考えられるというのが、良いところかなと思っています。

小：なるほど、時間の面でもお金の面でも「自由」というところが皆さんの共通点ですね。では次に、否定的な部分、不安や不満や悩みなどのネガティブな部分を、みたらしちゃんから出してもらっていいですか？

た：やばいのが多いんですけど、仕事時間が長い。仕事のプレッシャーというか、これだけやりたいという目標が達成できるかどうか、みたいな毎日。昔、痛めたところがぶり返したら仕事できなくなるなど思ったり。老後、1人で生きていく経済力がない、何千万という貯金がない。友達がいらない、大体いつも1人行動。HSP*体質で、すぐ疲れてしまう。仕事が続かない。仕事に飽きてしまうというか、

違うことをしたくなってくるので、それをして、何か単発アルバイトをしたり、違う部署に行って「違うことをさせてくれ」と言って、空き時間に違うところに行って倉庫管理をしたり。飽きないようになんとかして、仕事を続けている。あと、人が怖い。すぐビビってしまって、駅で1人でしゃべっている人とかワーワー言ってる人とか、酔ってるんだと思うけど、「怖い」で思ってしまう。不思議な人は少なくなったとはいえ、「怖い」で。何か分からないけど「怒ってるな」という気を感じて、自分は全然関係ないのに落ち込んでしまう。

* HSP とは、「人一倍敏感な人」(Highly Sensitive Person の略) という意味。アメリカの心理学者であるエレン・N・アーロンが提唱した概念。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、チョコさん。

チ：時間が自分の好きに仕事などで使えるという話をしましたが、やはり周りの結婚されている方を見ると残業できなかつたり、土日いろいろな用事があって帰ったりされているようなので、今の働き方に慣れてしまったら、結婚とか子育てという制限のある中では、自分がしたい仕事をしたいだけでなくなることに、ちょっと不安を感じています。あとは、独身であることそのものに、誰に対してなのか分からないけれど、申し訳ないなと思っています。何と言いますか、自分の欠陥だと思ってしまうたり、早く子どもが欲しいなと思うし、結婚してお子さんがいらっしゃる方と自分を比較して、すごく惨めな気持ちになります。何をどう思うのか分からないですけども、「自分が変わらなきゃ」みたいな気持ちになります。

全員：あー。

チ：なので、フェイスブックを見ることがしんどくなったんですよ。毎週、誰かが結婚して、毎週、どこかで子どもが生まれて、リア充な生活がすごく素敵な写真で発信されているのと、かたや毎週、暇さえあれば家でずっとアニメを見て浸っているというのがあって。私、何やってるんやろう、こんなに幸せな人がいっぱいいて、私は不幸せ、みたいな気持ちになるんです。調子が良ければ、私は独身貴族を謳歌していて、好きなことを好きなだけできると分かるんだけど、やっぱりそういうものと比較して、「自分はいけてない」とか「惨め」という気持ちになるので、解決策として携帯のフェイスブックのアプリを

消したんですけど。

全員：おー。

チ：「こんなもの見るから不幸せになるんや」って。でも、その一方で「現実から逃げてるだけなんちゃうんか」とか、また自分を責めてしまうんですけども、とりあえず自分のメンタルヘルスのために消したんです。変わりたい思いがあるということです。

小：ありがとうございます。じゃあ、みかんさん。

か：先ほど、「誰かに対してか分からないけど、独身であることを申し訳なく思う」と言われましたが、私の場合は親なんですよ。親が「結婚せえへんのか」とか「相手おらんのか」って。「誰か友達に紹介してもらったら？」とかってよく言われるんですけども、それもなかなか。今はまだ、なかなかいい人に出会えていないんで。親に孫の顔を見せてあげられないのが、申し訳ないって思いますね。最近、職場に赤ちゃんを連れてくる人がいたんですけど、それを見てやっぱりいいなって思ってる。でも、自分になりたいと思ってるものじゃないじゃないですか。結婚って、したいからできるものじゃないし。幸せそうな家庭とか親子連れとか見たら、うらやましいな、私も幸せな家庭を築けたらいいなって思いますね。あと、もう出ているんですけど、1人なんで、将来への不安。資金面においてもですし、結婚相手がいないければ、ゆくゆくは1人じゃないですか。ニュースで「都会の孤独死」とか見たら、だいぶん先なんですけど、「ああ、自分もそうなるのかな、でもそれ嫌やな」と思ったり。あと、現在、非正規で働いているので、それに関してもいろんなことができたらいいなとは思っていますね。今、思いつくのはそれくらいですね。

小：ありがとうございます。では、レモンさん。

レ：私も将来の不安の中で、親の介護と自分の老後が気になります。親の老後に関しては「介護離職」という言葉も聞くので、「仕事に就きながら両立できるのかな?」、あとは「自分自身の老後は大丈夫かな?」という不安があります。あとは皆さんがおっしゃってるみたいに、周りで結婚する方がどんどん増えて、お子さんが生まれて、友達と会う機会も少なくなったり、学生時代からの友達で共通点多いんですけど、会話のずれとか、聞くばっかりになってしまうとか、そういうのはちょっと寂しいなと思います。あとは自分がこのまま独身でいくと、何も変わってない、成長できてないんじゃないかなという空

虚感というか、寂しいなって。お子さんが生まれて皆さんどんどん強くなっていったり、知識が増えたり、コミュニティが増えたり、成長されていると思う反面、自分は自分のことばかり考えて成長できていないんじゃないかなという、漠然とした悩みがあります。

小：ありがとうございます。じゃあ、ももさん。

も：体調が悪くなった時とか病気になった時に、頼れる人が周りに誰もいない。ちょっと困った時に気楽に相談できるような人が全然いないので、もうネットに頼って1人で解決するしかないというのが不安かなということ。親がちょっと遠方なので、介護が必要になった時に、どうやったらいいのかなと思ったりとか。今も1人の時間は多いんですけど、定年後は職場との関係もなくなるから、どんどん1人になるだろうし、そうなったら私はどうやって生活していくんだろうと思ったり。さっきレモンさんも言ってたけど、結婚した友達とか子どもがいる友達とどんどん話が合わなくなって、やっぱり会う機会が減っていくし、一緒にいてもあまり楽しくないなと思ってしまったりするのが残念かなって。職場で子どもがいる人が優遇されてる感じがあって、残業せずにさっと帰りはったりとか、子どもの予定があるからって休んだりとか、お金の面で扶養手当とか子ども手当とか奥さんの手当があったりとかして、同じ仕事しているのに、働く内容には関係ないところでお金の差が出るところが、ちょっと納得いかないわと思ってます。

小：ありがとうございます。やはりネガティブな方が少し多いようですね。共通点は多いかなと思いますが、自分も思っていたけど、他の人の話を聞いてみて更にそう思ったとか、自分は挙げなかったけどそう思うというようなことがありましたか？

チ：聞いてて「そうだな」と思ったのは、大阪の友達は結婚してない子が多いから、自分だけ浮いた存在にはならないんですけども、地元の友達は結婚しているので、地元に戻っても子どもがいると会えなくなって、どんどん孤独になっていくんですね。1人であることで、もともと寂しいのに、そういうつながりも希薄になって、会話についていけないから余計寂しくなって、孤独感はあるのかなと共感できました。うちの場合は「まだまだ結婚しなくていいからね」と言っているのが、「それ、本気で言ってる？」って。

全員：(笑)

チ：本当は結婚してほしいけど、そうは言えないから優しくしてくれてるんちゃうんとか、ちょっとぎすすとしたものが…。

全員：(笑)

チ：自分は結婚したくて。このままでいいとは思ってないのにできてないところで、自分への負い目みたいなものがあって、やっぱりちょっと孤独なんだろうなと、自分の中で整理したところです。

小：他にになにかありますか？ 皆さん20代30代なんですけど、結婚していないことはプレッシャーですか？

た：ありますね。年上の人に「何歳以上で独身って、性格になんかあるんやわ」って言われるけど、「いや、違うねん」って。

全員：(笑)

た：おじいちゃんくらいの世代の人が、「男性で35歳過ぎて1回もバツもないって、絶対おかしいわ」って言う。女子やったら「20代後半で彼氏いない、おかしいわ」、次は「30代後半で、バツもなし、子どももなし、特になんもない、絶対おかしいわ」って、色々言われたことを思い出しました。

チ：「自分が悪いから結婚できてない」みたいなふうに、周りに思われてるんやろなっていうのも、ちょっと思ってしまうっていうか。

み：その話に乗ったわけじゃないんですけど、皆さん、婚活とかってしてますか？ やっぱり相手もきっと思ってるんでしょうけど、行ってる友達が「30過ぎたら、ろくな男性がいない」って言うんですね。でも、その逆も思われてるんだろなと思う。無意識とか、何となく。でもこっちも、ある程度の年齢で男性が独身だったら、「めっちゃ女癖悪いんちゃうか」とか、なんか思いませんか？

全員：あー。うんうん。

か：だからやっぱり、そういうのってあるんやろな。「自分は違う」って思うけど、自分も異性に対してそう思ってしまう部分があるから、他の人から見たらそう思われてるんやろな、って。思われたくないって思いながらも、自分も思ってしまったし、なんかね…。

小：他の方どうですか？ レモンさん？

レ：他に自分が思うところですか？

小：でもいいですし、今のお話で、いや、そういうふうに言ってるけど、私は1人で生きるとは全然OKだと思うし、人から言われたって別に気にしないわとか…。

レ：過敏になってきているとは思いますが、TVとかも見てると。先ほどの「生涯未婚率」の記事が新聞に載っていたり、NHKで「未婚女性」の特集があったりすると、食い入るように見てしまっ。親も、そういうつもりで言っていないのに「あんたも、もうそんな年なんやな、ほんまに大人になったな」という言葉もグサッと来たりとか、いろんなことに過敏になってしまっ。結婚のリミットとかあるのかなとか。そのリミットを超えたら楽になるのかな、でも結婚したいしなとか。行ったり来たりって感じですね。結婚したいけどうまくいかないし、でもしたいし、みたいな感じですかね。揺れてますかね。

か：自分の中であります？やっぱり、お子さん欲しいじゃないですか？

レ：そうですね。

か：女の人って、できたら35までに。周りからのプレッシャーもあるし、自分の中でも追い込まれてる気がします。そういう意味で。

チ：家庭が欲しいという一方で、こんだけ「3組に1組は離婚」とかいうから、失敗したくないというのも思うし。

全員：そうそう。

チ：そうするとやっぱり、見定めなあかんとなったら、勇気もなくて、さっき言うてはったみたいに「この人、なんかあるんちゃうか？」っていう目で見、疑ってしまっ、どんどん猜疑心が沸いて「慎重にならないと、慎重にならないと」という思いと焦りが戦ってるというか。

小：ももさんは、どうですか？

も：私はあまり結婚願望もなくて、子どもも欲しいとあまり思っていないんです。今、33なんですけど、20代の頃、親と「結婚せえへんの？」「せえへん！」ってさんざんケンカをして今に至って、もう今はあまり言われなくなっているんですけど。でも、一緒に生活できるパートナーは誰かいたらいいなとは思っ。でも、それが結婚なのかというと、私は1人の時間が好きだし、自由にしてたいし、結婚というと相手の生活のこととか相手の親のこととかもあって…となると、そこまで背負いきられへん気がして。なんか、あんまりそこまでしたいと思わなくて、でもどうやって1人で生きていったらいいんだろうと思ったりはするんですけど。

小：あと仕事の面で出ていること、時間の話とか、お金の話とか、仕事の幅が限られているとか、将来の展望が持てるのかとかといったこと

が拳がっていました。正規と非正規では状況が違えるかもしれませんが、どうですかね？…仕事のことって、あんまり気がかりじゃない？

か：気がかりです。私は正社員じゃないから、正社員として働き出したら違ってくるんですけど、給料も全然違いますし。そこまではないと思いますけど退職金も全然ないし、今は親がいるからいいけど、やっぱり親の方が先にいなくなるので、今の経済力だったら自分1人で生きていけないかなと思っ。できたら正社員として働きたいんですけど、過去に人間関係でちょっとトラブルがあって、そこからうまく人間関係が築けなくて。なんとなく日本って、1回正社員になったら、そこで一生働き続けるっていうイメージがあっ。踏み出せなくて、今に至ってしまったんですけど。そんなんしている間に年齢もいってしまっ、正社員で働くことすら難しくなっているし、今回、ここに来たのも、正社員になるためにはどうすればいいか、ヒントを得られたらいいなというのもあったんです。だから仕事のことは、すごい不安ですね。

た：子どもがいる人の分の仕事も自分がして、「早く帰りよ」って、他人の分もやってるのに、「私、手当ついてないわ」って思っ。何とか手当はついてるけど、そういえば子どもがいるからって早よ帰っても、手当ついてるんやなって思いました。

小：なるほど。一方で、明るい話、ポジティブな面にも触れておきたいのですが、自分の趣味とか好きなことに好きなだけお金と時間が使えるとなると、やっぱり楽しみにつながって、充実感がありますか？ チョコさん、すごくうなずいておられますけど。

チ：確かに、早くに結婚して子どもを持った人たちは、旅行も思うように行けなかったりしますから、そういった分、自分は好きなように行けるんですけど。一緒に旅行に行く相手が結婚してしまった時に、「ああ伴侶を失った」って。

全員：(笑)

チ：ということは、趣味といっても、1人じゃなくて誰かと一緒にするようなものだと、そこでその趣味はなくなってしまうって、結局、時間もお金も持て余すじゃないけど、そこまでお金はないんですけど、前だったら「もっとしたい」って思っ。た分くらいは今はあるのに、できない、みたいな。結局、ネガティブ

に戻っちゃう。自由は自由で、謳歌したいと思っていても、結局、やり切っちゃったみたいな気持ちにもなるのかなと。最近、友人が結婚したことによって、また不安になったんですけど。一方で、子育てとか妻や嫁としての経験はないけれども、その分私いっぱい体験して楽しんできたよね、っていうのはありますね。

小：他の方は、どうですか？

も：私も1人を謳歌しているような。お金も時間も、そんなにいっぱいはないですけども。「子どもの学費のために貯金しておかなあかん」みたいに何かに制限されることもないし、赤字だったら赤字で、ただ自分のおなか痛いということではないし。

全員：(笑)

も：友達に急に「これあるけど行かん？」みたいと言われても、自分の都合だけでぱっと思いついて行動できるのは楽しいかなと思って。あと、1人でできることがどんどん増えて。

全員：(笑)

も：このままこっちの道に進んでいいのかなと思いつながらも、1人でできることが増えてるなと。

全員：(笑)

小：成長してると。

も：前は「これ、誰かと一緒じゃなきゃ嫌」って思ってたけど、「もう1人で行くしかないもんね」と思って。

全員：(笑)

た：「1人〇〇」が増えてる。

小：他の方はどうですか？

た：確かに、たまにデパコス*行って、お目当てのやつを買ってみたりして、「これ結婚したら無理やろな」って。時間もないし、ドラッグストアでぱっと買ってしまうのかなと思ったり。ダイエットを1人できるのは醍醐味かもしれない。家族がいたら、そういう時に限って、おいしいのを買ってくる。みんなでケーキ食べていて、「あ、ケーキ買ってきたぞ」とか。「今日から始めたんやけど、いや、食べよう、明日からでもいいじゃないか」って。うん。1人ダイエット。痩せてないけど。あと、自分のためにお金が使えるのは、すごく大きいと思う。今月は1人で節約に挑戦とか、1人やから腹立つこともないし、「これだけ使うぞ」とか「電気つけっぱなしにせんといてよ」みたいなのも一切ないし。それは大きいかなと思う。

*デパコスとは、「デパートのコスメ売り場」の略。

小：…あと、さっき地元の友達や学生時代の友達が減っていくという話何人かから出ていましたが、大人になってから出会う友達っていうのはいませんか？ 減るばかりで増えることはないですか？

も：この前、婚活パーティーに行ったら女の子と仲良くなって。また飲みに行こう、みたいな。

全員：(笑)

小：良いと思います。

も：男の人より女の人の方が、気楽で気が合うんかもしれないと思いました。

全員：(笑)

小：他の人はどうですか？

レ：皆さん、お金とかを自分の好きなことに使って楽しんでいらっしゃるのを聞いて、実は自分はそれもそれほど楽しめてないなと。もともとインドア派で、ラジオを聞いたりテレビを見たりするのが好きなので、自分はあまり1人も謳歌できてないなと、今思いました。

小：いや、それはそれで楽しめているのでは？

レ：人とあまり関わってないから、新しい友達も増えないし。

小：でも1人の楽しみがあるのは、それはそれで全然いいと思います。

た：時間すごくとるよね。映画見て、撮りだめしたアニメ見て。見ないと次がどんどんたまっていくのよ。ああ、今週終了、みたいな。

小：「ハードディスクの残量がないですよ」とかね。

た：「撮れませんでした」って表示されて、泣く泣く消したのもいっぱいある。見てないけど、これ消しちゃえ、えいって。

小：皆さんが、今の自分についてどう思っているかについてお話していただいたので、ワークシート2に行きたいと思います。10年後の自分を想像してみましようというシートです。仕事のこと、暮らしのこと、人間関係のこと、10年後にこんなふうになっていたらいなということを、左側の「理想」のところに書いて下さい。右側は理想を現実にするために必要な情報やモノなどを書いてください。右側は書きづらいかもしれないので、左側の「理想」の部分を中心に、5分くらいでお願いします。

②ワークシート2の記入 (5分程度)

小：じゃあ、今度はチョコさんから「理想」の部分に書いたことをお願いします。

チ：すごい妄想したんですけど。

全員：(笑)

小：どうぞ！

チ：仕事としては、私は正職なんですけど、今より責任は増えていると思うけれども、人材育成にも力を入れて、自分と思いを共にできる人を育てて、自分が目指している、自分の思いが実現できる仕事をするようになっていたいということ。結婚して、子どもは2人で、毎日にぎやかで、きれいな家に住んでいたいということですね。これは結構、子どもの頃からの夢です。子どもを介して、地域でのママ友やコミュニティに参加することも楽しんでいたいということ。親は、孫に会うことを生きがいのひとつにしていると思うので、今は実家を離れていてなかなか会えないんですけど、できるだけ一緒にいっぱい過ごしたいということ。すでにママになっている友達とは、今は疎遠になっているのですが、そういう友達とも交流を復活して、いろいろなアドバイスももらって、子育てを大変ながらも楽しんでいたいということ。たまには子どもを預けて、夫と2人でデートしたいです。

全員：(笑)

チ：ということを理想としました。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、みかんさん、理想のところを教えてください。

か：正直、将来とか10年後って、普段あんまり考えたことなくって、今、突然言われて、無理やり出したので単語しか出てないのですが、とりあえず正社員として働いていたらいいと思うのと、素敵な人と出会って結婚できていたら一番良いと思いますね。「この人と一生添い遂げたい」という人と、まず出会いたいです。今よりも他人と上手くしゃべれるようになって、人間関係をうまく築けるようなスキルを身に付けていたらいいと思います。あと、主題からズレているんですけど、今、「これがすごい大好きで、これやってたら幸せ」みたいなものがないんですけど、そういうのができてたら、今よりは充実というか、楽しく過ごせるかなと思います。そんなところです。

小：ありがとうございます。じゃあ、レモンさん。

レ：私も同じで、私は非正規だったんですが、今年7月に退職して、今は転職活動中なので、正社員として働いて、自分の力を発揮できる環境にいたいと思ってます。あと、すごく抽象的なことばかりなんですけども、10年後どんな環境にあっても、結婚していても結婚していなくても、人と比べずに自分を肯定

できるような精神を持っていたいなと。精神論みたいですけど、そういうのもあります。あと、私は「こういうのしたいな」「ああいうのしたいな」と思ってばかりで行動できないタイプなので、10年後は自分の好きなことをまずやってみるという、チャレンジ精神のある自分でいたらいいな。若い人たちが挑戦するのをすごく見てきたので、10年後に、年を重ねてもチャレンジできるような自分でいたいなと思います。

小：ありがとうございます。じゃあ、ももさん。

も：今の仕事かどうかかわからないけど、安定した仕事を続けられていたら良いなというのと。私も3年前までは非正規で、今はじめて正規職で働いていて、最初はやりたい部署にいたけど、3年目の今は全然関係ない部署にいます。全然やりたいと思っていなかったところで、今、悶々としながら働いているので、またやりたいことができていたらいいなと思います。あとは健康でいられたらなとか、こっちが地元じゃないので、もっと地域の人とつながりができていたらいいなとか。親が元気で地元に来てくれたらいいなとか。何か一緒にできるような友達がいたらいいなとか、あと、定年後もずっと続けられるような趣味が何かあるといいなと思いました。

小：ありがとうございます。じゃあ、みたらしちゃん。

た：何の仕事でもいいから、1人暮らしで、「ああ貧困や」と思わないくらいの収入がある仕事に、死ぬまでずっと就いていたい。10年後以上だけど、60超えても「引き続き、先生よろしくお願いします」みたいな。ちょっとだけ給料が下がったとしても、死ぬ前日まで働きたい。で、とりあえず健康。看病してくれる人がいないので、とりあえず健康でいるはずだ。家は、モデルルームのようにきれいになっているはずだ。

全員：(笑)

た：柳系のメンタルになりたい。何か言われても、「ふふふ」って。

チ：しなやかかってことですね。

た：一晩寝たらすべて忘れる、みたいな。「寝たら忘れんねん、私」っていう人になってみたい。「もう終わったことやろな」と思いながらも、思い出して悶々して、「あの時こうしといたらよかった、今だったら絶対、言えるのに」とかいうことがないように、言える時は言える人になりたい。ジャンルごとの友達がたくさんいて、近所でちょっとご飯食べたいとい

う時に電話したら来てくれるとか、旅行好きな子だったら「ここ行きたい」って言ったら「ああ、私も行きたいわ」って一緒に行ったりとか。もっとぜいたくを言うなら、深い話や重い話でも、自分のことを話せるような人がいたら、ずっと生きていけるんじゃないかな、と思ったり。最後は毎日、生存確認しあって、80、90 くらいになったらグループラインかなんかで「生きてる?」「生きてるよ!」とか、なんもなかったら「あの人、倒れてるんちゃうか」みたいな、軽い感じで、お互いにあまりガツガツ入っていかずに。1 人設定だな、私。結婚できたらいいけど、理想です。結婚して子どもを連れて地域のイベントに参加してっていう。これをベースにやったら。

小: そんなところですか。ありがとうございます。一度全部出してから話をしたいので、次はみかんさんから、理想に近づけるために何かというのがあったら。書いてなくても全然大丈夫ですよ。あったら挙げてもらっていいですか?

か: まず出会いと、あとやる気。

全員: うーん。

か: 何をするにも行動力が要るんで、行動力を身につけてたら何かしらできるのかなと思いますし、あと、やっぱり婚活にしても、話しかけるにしても勇気が要るじゃないですか。自分にもっと勇気があったら、何事も進んでできるのかなと思います。そうですね、行動力とか、そんなところがあればいいかなと思います。

小: ありがとうございます。じゃあ、レモンさん。

レ: 私も同感です。10 年後、自分が結婚しているのかいないのか、どういう状況なのか分からないんですけども、いろんな孤独感はあると思うので、どちらにしても自分の良さとか自分はこういうことができるんだっていうことを再確認できる場所があったらうれしいなと思っています。すてっぷさんにもいろんな講座を開いていただいているんですけど、「理想」が今たくさん並んでいるので、それに合わせた講座があればそれに参加して、自分がその都度修正して、気持ちを上げて暮らしていけるのかなと思いました。

小: はい、ありがとうございます。ももさん、どうですか?

も: 私は多分、お金。お金って絶対要る。1 人の方がお金かかる気がする。頼る人がいないから、でも解決するにはお金がいる。あと、友達。人間関係が続いて、友達がいてくれたら

なと思うのと、賃貸でも一戸建てでも、住む拠点がしっかりあるといいな。あとは弟がこのまま実家にいてくれたら、私はこっちで気楽に暮らしていられるなと思ったので。

小: はい、じゃあ、みたらしちゃん。

た: ほとんど出てるんですけど、それに加えて、体を鍛える。猪木様が言ったように、元気があれば何でもできる。「しんどいから洗濯物は明日、たたもう」みたいになるけど、元気があったらやる気も勇気も出てくるし、行動力も出てくるし、行動力が出てきたら出会いもあるかなと。1 人でいて体がダメになると、全部ダメになってしまうので。病気せずに、疲れない体。あと、最悪、友達ができなくても、老人会みたいにパッと集まって、どうでもいい話して、パッと帰るみたいな、気が済む場所があれば。「あの病院よかったよ」とか「あの先生よかったな」とか。無駄足を踏みたくないし、傷つきたくないから、そういうのも欲しい。仕事は普通の仕事をしていたら、もしかしたら普通の生活ができるかな。今の部署を辞めたいってずっと思っている…。

小: …うん。そんな感じ?

た: そんな感じ。

小: はい、ありがとうございます。じゃあ、チョコさん。

チ: 本当に出きってるんですけども、職場に関しては人間関係のよい職場で、やりがいのあることが理想だと思います。皆さんがおっしゃっているように、住居と、お金も含めて生活力があればと思ったのと、健康であること、自分もだし、周りの方々も、やはり介護の問題とかが出てくる年代になると思うので、親も健康であってほしい。あとは友人関係、コミュニティとのつながりがあったらいいなと思ったのと、勇気という言葉も出ていましたが、私は自信があればいいなと思いました。あとは、いい夫。

全員: (笑)

チ: 自分をすごく価値ある存在として認めてくれて尊重してくれる、子育てにも協力してくれる、ハイブリッドな夫!

全員: (笑)

小: そんなところですか? ありがとうございます。他の人の話を聞いて同じふうに思っていたとか、思っていなかったけど聞いて納得したということがありますか?

か: 健康って、当たり前すぎてというか、今、特に何も問題がないので考えもつかなかったん

ですけど、言われてみて、ああそうやな、健康も大事ななと思いました。健康でないと何もできないですからね。

た：自分だけだと思って1人で検索して落ち込んでたけど。

チ：理想に近づくためにあったらいいモノ・コトってというのは、ほとんどが共通していたのかなと思いましたね。さっきはやっぱりばらつきがありましたけど、こっちはすごく。

小：ところで、身近に40~50代のシングルで「あんなふうだったらなってみたいな」って人はいますか？

全員：いないです。

小：それは、40~50代の女性というのは結婚している女性ばかりだから？ それともシングルだけど、あんなふうはちょっと嫌だな、みたいな感じなのか、そのあたりはどうですか？

た・か：両方。私は。

か：私は後者。40代の人がいるけど、あんなふうになりたくないわって思う。

全員：どういうところが？

か：1人暮らしをされてるんですけど、正社員じゃないし、あまり充実してなさそうな感じというか、なんて言うんだらう。世の中にはシングルでも「私、幸せ」みたいな人っていると思うけど、そうじゃないんですよ。

小：みたらしちゃんは、どうですか？

た：私は両方。素敵なお人と、「ああ、ちょっと頑張れよ」っていう。「大丈夫だよ、君、大丈夫だよ」っていうのとあって、下の人は転落してしまって、家がないところまで行った人もいたりして。40代、50代、60代でシングルの人って、とりあえずめっちゃ稼いでキラキラしている人。億ではないけど、きれいな家に住んで、何の不自由もなく親に仕送りもして、みたいな暮らしをしている人で、全部デパコスだったり。車とかもレクサスの一番上のやつに乗ってたり。家買ったりとか、キラキラしてんなーと思います。こうなれたらと思うけど、悪魔と契約するくらいでないと無理だろうなって。

小：他の方どうですか？

も：私の周りには40~50代でシングルという人があまりいないんですけど、思い浮かべると、別になりたくないとはまでは思わないけど、大変そうやなって。その人は役職にもついて、仕事をすごい頑張ってはるんやなと思うけど、残業もあまりにもしすぎて。土日もずっと来てるし。あんな状態では、あまり働き

たくないなと思って。こういうふうになりたいという理想の人が身近にいないなと。

レ：私も、役職についている方が多い分、制限をされているなと思います。もし結婚されていたとしても、子どもを産むタイミングも自分で決めづらかったりとか、大変そうだなというのはそういうところで感じています。すごく仕事を頑張っていられちゃう方が多いので、その分、注意する立場になっていただいているという、ありがたさもあるんですけど、すごい大変だなんて思いますし、そういうのを見ると、自分自身もそこまで行けるかどうかかわからないけど、自分はそんなふうになりたいのかなというのがあります。

小：もちろん結婚するかもしれない。一方でそのまま1人でのいるかもしれない。皆さんにとって、プラスとマイナスがあったとしたら、ゼロ地点はどのあたりですか？結婚していないということがゼロ地点で、したらプラスだし、しなくてもゼロ地点でずっと行くのか、結婚していることがゼロ地点で、プラス子どもが生まれて関係が良くて…がプラスの上の方に行って、1人でのいることがすでにマイナスのあたりなのか、どうですか？

全員：うーん、どうなんやろ…。

小：難しい質問をしてしまいましたが…。

た：ラインが違ふとか思った。

チ：今の自分としては、「結婚して家族を持つ」ことに目標を置いているので、そこでいうと、ゼロが「結婚していない」で、プラスが「家族を持つ」なんですけども、もしかしていくつかになった時に、自分が自己実現するための目標を、「仕事」とか「やりがい」というものにかき替えたたら、もう独身であることは別にマイナスでもなくて、プラスの要素を変えていくというか、結婚しているかないかよりも、自分のしたいことがどれだけできているかに着目して生きていけるかなと思ってるんですけど、今のところ理想は「結婚」だと思っているので、そう考えると「結婚していない」ことはマイナスになるのかもしれないですね。結婚できたらゼロという感じですかね。

小：他の方がいかがですか？ 急に振られて答えられなくてもOKなんですけど。さっきの「理想に近づくために」という方に戻りますけど、レモンさんが「すてっぶで自分の状況を考えられるような講座があったらいいな」と言って下さいましたが、他にもいくつか「地域で老人会があったらいいけど、そういう活

動をどこでやっているか分からないから行けない」とか、そもそも地域の近所づきあいとかあるのかなのか、といったことがいくつか出ています。すてっぷでなくてもいいので、理想に近づけるために、具体的にどんなことがあったらいいと思いますか？

チ：40～50代でシングルで生きていこうという選択をされた方が、30代の私たちと同じ年代の時には葛藤もあったけれど、どういうふうに気持ちを割り切って、さっき言った目標をかけ替えられたのかとか、ありのままの自分を認められず、誰かと比較して自分を卑下するのはすごく精神的にも消耗するけど、「このままの自分でいいやん」と思うようになった経過とかを聞かせていただけたら、今持っている「結婚できへんかったら、どうしよう」という焦りとか、老後に対する漠然とした不安も、「ああ、この人みたいになってもいいかも」という、気持ちとしての保険が持てるのかなと。それもひとつの選択肢だし、はなから「私、目標が違うからこの人の話聞かへん」じゃなくて、「こういうふうに生きてもいいかもしれへん、それも自分として受け入れられるかもしれへん」という成功例、ひとつのモデルとして創出していただけたら、興味はあるなと。もしお金が無くなったとしても、こういうものがあるとか、こういうつながりもあるとか、「シングルを貫いたからといって、孤立するわけじゃないんだよ」ということを聞かせていただいたら、安心できるんじゃないかなと思います。

小：他の方どうですか？

レ：お金が必要ということを私も思いつかなかったもので、そうだなと思ったんですが、お金がかかる場面として、「子どもが生まれた」とか「大学に行く」とかいうことはよく聞くんですけど、1人で暮らすとなった時に、どれくらいお金がかかるのかというのをイメージできたら安心できるというか。

小：老後の生活費がどれくらいかかって、そのためには何年越しで、どうやってお金を用意するのかという、マネープランのようなものですね？

レ：老人ホームに入るとしたらいくらかかるのかとか。1人で生きることを推進するのは、これからの国の考え方とは違うかもしれないんですけど、こういうプランでこういうお金のかかり方もありますよ、ということを知るだけでも勇気が出るっていうか、そういう意味でも、あったらいいなと思いました。

③まとめと感想

小：皆さんうなずいておられますが、いろいろな視点が示されて気づかされることも多く、私もタイムキーパーの役割を若干、忘れていて、もうぎりぎりの時間になってしまいました。もちろん、すてっぷは1人で生きることを推奨するわけでも、結婚することをネガティブにとらえているわけでもありません。ただ、どの生き方を選んでもOKのはずなのに、シングルでいることがネガティブにとらえられがちなので、皆さんのお話の中から、そこを変えていける何かが出てくるのではないかという思いで取り組んでいます。仕事やキャリアについては、あまり突っ込んだ話ができませんでしたし、人間関係の悩みなどはやはり言いにくく、すべてのことを話しきれなかったかもしれませんが、まだどこかでお話ができる機会が作れたらと思いました。時間が迫っていますので、最後に今日、参加された感想を、レモンさんから一言ずつお願いします。

レ：今日、参加させていただいて、自分で思い悩んでいたことにも気づきましたし、皆さんと共有できて、自分だけで考えずに皆に相談して、前向きにやっていくのが大事だなと思って、気が楽になりました。ありがとうございました。

小：ありがとうございました。ももさん。

も：自分のライフプランの中で、「結婚」とか「子どもがいること」を理想だと思ったことがあまりなかったので、率直に話されているのを聞いて、そういうプランもあるんだ、いいなあと、ちょっと考え方の幅が広がったなと思いました。ありがとうございました。

小：みたらしちゃん。

た：1人でもんもんと考えていたことが、みんな1回は考えたことがあるんだ、そんなに絶望的になることもないかなと思えたので、話が聞けてよかったです。ありがとうございました。

小：チョコさん。

チ：会社の先輩には、私よりも年上でシングルの方もおられて、共通点があるとはいえ、そういう方の前であまり結婚の話や、「焦る」とか言いにくいところがあるんですけど、今日はそういうのを取っ払って、今の自分の思いをお話しすることで偽りない自分を出せて、自分自身の思いにも気づけたなと、とてもいい機会になりました。皆さんの意見を聞きな

がら、そういう考えもあるんだなと気づかされることもあり、とても楽しかったです。ありがとうございます。

小：じゃあ、みかんさん。

か：人とこんなテーマで話すことって、まずないじゃないですか？ 同じ年代で同じ状況の人って、いてもあまり近しいと、そういう話、しないんです。だから今日は、いろんな話が聞けてよかったです。自分自身もこんなふうに思っていたんやな、と再確認できました。またこんな機会があったらぜひ参加したいと思いました。ありがとうございました。

小：はい、ありがとうございました。

④今後の予定などについて説明（割愛）

以上

■グループインタビュー時のワークシート記入内容（40～54 歳グループ）

1) ワークシート 1・未婚女性である、今の自分（ 歳）について思うこと

	仕事（雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など） 暮らし（健康、衣食住、地域との関わり、趣味など） 人間関係（家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など）など	
	肯定的・長所・ポジティブ・満足	否定的・短所・ネガティブ・不満・不安・悩み
すずめ (52 歳)	・自分のやりたいように仕事ができる（内容、時間など） ・両親共に他界しているので介護の心配はない ・独身の友人はそこそこいるので自分の都合のいい時に会ったりはできる ・好き勝手、自由気まま、他人に気をつかわず生きていられる	・その反面、なかなか思うように仕事とれないので、金銭的には… ・孤立感、誰にも頼れない不安 ・イマイチつながりが強くないのでむなしさを感じることも ・健康問題について不安。倒れても誰にも気づかれないのでは…とか
まぐま (50 歳)	・誰にも邪魔されない生活ができる ・自分がやりたい！と思う仕事できており充実している ・嫌なことがあってもすぐ忘れて前進できる ・実家が近くなのでほぼ二重生活で協力体制で生活できている	・老後が不安…（人間関係、健康） ・寄る年波になかなか勝てない ・収入がなかなか増えない（節約志向の生活がいつまで続けられるかな…？） ・実家の家族に何かあったら大変だ！！
やまぴー (46 歳)	・自分だけの為にお金も時間も使える（仕事、趣味、休日） ・何でも一人でするようになった（できるようになった） ・ムリして付き合わなくていい（ママ友とか） ・実家近くで一人くらしなので気楽	・一人で何でもできると思われている気がする（職場） ・親の介護 ・本当に一人になったときの不安 ・地域が「家族」を基本と考えているので参加できない ・病気になったとき、入院したとき老後のことが心配 ・仕事をふられやすい
ほしちゃん (45 歳)	・仕事に関しては恵まれていると思う、有休も取得可能で残業もほとんどない ・1人暮らしではあるが、近くに母親が住んでいるため気楽である ・人間関係で特に問題はないと思う	・女性社員であるからかどうかはわからないが、今後給与が年令とともに上がるかどうかかわからず不安 ・また、今の仕事にずっとついていのかどうかも不安（リストラなど） ・1人暮らしのため、地域との関わりは難しいように感じる（あいさつをする程度） ・母親の死後は不安 ・自由すぎ？
なお (42 歳)	・自由気ままに過ごせる ・行動範囲が広い ・お金を自由に使える	・社会的に認められていない気持ちになる ・将来への不安 ・健康への不安 ・公的助成の少なさ ・地域の関わりが少なく、老後のコミュニティが不安

2) ワークシート2・10年後の自分（ 歳）を想像してみる

	仕事（雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など） 暮らし（健康、衣食住、地域との関わり、趣味など） 人間関係（家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など）など	
	理想	現実を理想に近づけるのにあったら いいコト・モノ・ヒトなど
すずめ (52 歳) ↓ (62 歳)	・今よりは在宅でできる仕事が増えていたらいいな ・健康、体力は現状維持で ・何か生きがいをもてるもの（仕事、活動、ペット?）があるといいな ・不安を相談できる場	・同意書しぼりがなくなる ・コミュニティ ・もっと深いつながり ・ホームシェア
まぐま (50 歳) ↓ (60 歳)	・今と同じか…今よりは少しでも良い暮らしができていたらいいなあ…（健康でいる、収入も） ・気のあうシングルの女友達とホームシェアして暮らしたりもいいなあ… ・実家の家族も長生きで健康に暮らしてほしい ・シングルの女性も安心して老後を暮らしていけるような世の中になってほしい	・経験をシェアできる場（病気、介護）、顔がみえる関係で
やまぴー (46 歳) ↓ (56 歳)	・心身共に健康 ・頼れるパートナーがいる ・両親も健康に生きている ・仕事を続けられている ・お金が貯まっている ・今つながっている友人とつながっている ・活動的でいる、生きがい	・健康に気をつける ・周りをお願いしたり出歩く ・イヤなことがあってもやめない、人に頼る ・弱音を言える自分になる ・ムダづかいしない ・今つながっている友人とつながっている ・独身サロンのなもの
ほしちゃん (45 歳) ↓ (55 歳)	・今の仕事を継続し、健康（病気にならないよう）でいる ・家族も健康 ・将来のことについて話あえる友人がいる ・趣味をふやす	・10年後も健康でいるために、運動をするなどできる限りのことをする ・独身手当…
なお (42 歳) ↓ (52 歳)	・中高年を積極的に雇用する会社が増えて年金以外に収入を得ることができ（働ける）場の確保 ・独身・単身者への助成がある ・共に暮らすパートナーが欲しい ・趣味を広げる	・いろんな人が集えるカフェや図書館など街の再開発 ・独身・単身世帯が集える場所、環境、街の整備 ・入院したり手術の際の同意書のしぼりをゆるくして欲しい

■グループインタビューのテープ起こし（40～54 歳グループ）

①ワークシート1の記入

小河（以下小）：8分くらい経ちましたが、いかがでしょうか。話しながら書き足していただいてもかまいません。聞き漏らす場合もあるので、前のホワイトボードに書きながら、皆さんの意見をシェアしたいと思います。まず「肯定的・長所・ポジティブ・満足」な面について、どなたからでもいいのですが、いかがでしょうか？ では、まぐまさんからお願いします。

まぐま（以下ま）：私が書いたのは、誰にも邪魔されない生活ができるということと…。全部読み上げましょうか？

小：もし長く書いているのであれば、要約していただいてポイントだけでいいです。

ま：そうですね、自分がやりたいと思う仕事できていて、充実している。

小：いいですね。

ま：あと、基本1人暮らしなのですが、実家が近いので、ほぼ二重生活みたいな感じで、協力体制を持ちながら生活ができています。だいたい、こんなところですよ。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、次、やまぴーさん。

やまぴー（以下や）：自分だけのためにお金と時間が使える。

小：ああ、大きいですね。

や：あとは、人間関係で無理して付き合わなくていい。たとえばママ友とか。

小：じゃあ、ほしちゃん。

ほしちゃん（以下ほ）：先ほど、まぐまさんがおっしゃっていたことですが、私も1人暮らしで、近くに母親が住んでいるので、協力体制というか、お互い気楽に付き合っています。家族もずっと一緒に住んでいたら、嫌なことも見ていかないといけないんですけど、そういった面では気楽かなというのがあります。仕事に関しては、今の仕事は

特に大変ということもないので、満足して働けているかなと思います。

小：無理しないで働ける仕事、いいですね。ありがとうございます。じゃあ、なおさん。

なお（以下な）：はい、私も皆さんとほとんど同じなのですが、自由気ままに過ごせるとか、行動範囲が自由に広く過ごせるとか、お金を自由に使えるとかですね。

小：じゃあ、すずめさん。

すずめ（以下す）：私も自由、気まま、好き勝手、周りに気を遣わず生きていけるというところ。独身の友達もそこそこいるので、自分の都合のいい時に会ったりできる。あと、両親ともに他界していますので、介護の心配がない。あと、自営業なので、自分のやりたいように仕事ができる、内容とか時間とかというのは肯定的なところかなと思っています。

小：はい、ありがとうございます。やっぱり「自由」ですかね、共通しているのは。仕事だったり時間だったり、自分で決められる範囲がすごく広いということが、割と皆さんに共通していたかなと思います。じゃあ次に、やまぴーさんから「一方で…」という話も出してもらっていいですか？

や：こっちの方がたくさんあったんですけど…。私の考え方を変えたら、これはクリアできるかと思うのですが、職場で「1人で何でもできる」と思われがちで、しんどい。あと、妹がいるのですが、けっこう遠い所でパートナーの両親のそばに住んでいるので、おそらく自分の親の介護は私だと思います。親の介護とか、親が死んで本当に1人になった時の不安。それから、地域の行事やイベントに参加したいと思うのだけど、「子連れで」とか家族を基本とした設定なので参加できない。私も1人暮らしで、親の家の近くに住んでいるのですが、自分が突然死しても誰も助けてくれないだろうとか、いつ気づいてもらえるんやろとか、ふとした時に不安になることがあります。以上です。

小：ありがとうございます。じゃあ、ほしちゃん。

ほ：今のやまぴーさんと、ほとんど同じなのですが…。

全員：(笑)

小：出尽くした感が…。違うの無い、みたいな。

ほ：やっぱり私も 1 人暮らしで、母親が近くに住んでいるのですが、父親は死んでいるので、母の介護や亡くなった後の不安。地域の行事は家族の方のほうに参加しやすいというか、近所の方に挨拶はするんですけど、そこまで止まり、顔見知り程度で、それ以上はなかなか関わることはないかなというのがあります。仕事も、今は満足していますが、雇われ社員なので、会社がいつどうなるか分かりませんし、傾いて倒産でもすれば仕事がなくなって、その後に仕事はあるんだろうか、という不安も出てきます。考えていったらきりが無いのですが、ポジティブ面でいえば気楽な反面、「こんなに自由すぎていいのだろうか」と不安に思ったりもします。

小：そんなところですか。ありがとうございます。じゃあ、なおさん。

な：私は、社会的に認められていないような気持ちになったり、「結婚しているのが当たり前」じゃないけど、そういう気持ちになったり。将来への不安とか、健康不安とか、不安がけっこうあります。あと公的助成の少なさ、子どもの支援ばかりニュースになりますが、「おひとり様女性」にもあっていいのにと思ったり、手厚い助成金とかは家族ばかりだなと感じたり。あと地域との関わりが少なく、大阪で仕事をして豊中に住んでいると、ふだん豊中にいないんで、ご近所さんと井戸端会議をするわけでもなく、知り合いが少ないので、年をとって会社勤めをやめたらどうなっちゃうのかなという、コミュニティの薄さに不安を感じたりします。

小：なるほど。そんなところですか。はい、ありがとうございます。じゃあ、すずめさん。

す：私は自営業ですので、「自分のやりたいように仕事ができる」とさっき言いましたが、その反面、なかなか思うように仕事が取れないので、金銭的に苦しく不安です。どうなるんやろう、これからどれくらい出ていくんやろうと思うのと、入りとの差というか、定職に就いている勤め人じゃないので、そのあたりの金銭的なところがすごくシビアに感じます。あと「両親が他界しているから介護の心配はない」と言いましたが、きょうだいがいても男きょうだいでまったくの孤立感、誰にも頼れない不安感がすごくあります。あと、「独身の友達がそこそこいて、都合のいい時には会ったりできる」と言いましたが、いま

いちつなかりが強い。ファミリーじゃない、子どもでもない、血のつながりもないし、お互いに都合のいい時にだけ会う独身の友達なので、つながりが強いので、会っても空しさを感じる時がある。なんだかなあ、何なんだろうこの関係性、みたいな。向こうは思っていないんでしょうけど、私はけっこう冷めた目で見ています。あとは、健康問題はすごく不安です。50 代に入っている不具合がいっぱい出てきたんで、倒れても誰にも気づいてもらえないんじゃないかと思います。仕事も、たとえば毎日お勤めしていたら、「あの人来ない」ということで、分かってももらえるかもしれないけれど、自営業でそんなにいろんな方と毎日連絡を取るような仕事じゃないので、気が付いた時には白骨化…みたいなことになったら嫌だなと、ちょっと思ったりします。以上です。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ最後に、まぐまさん。

ま：けっこう出尽くしました。

全員：(笑)

小：でも、どんなところが一緒だったかでもいいので。

ま：やはり、人生 80 年時代、もっとかもしれない時代にあって、寄る年波には勝てんな、という健康の不安がすごくあります。去年まではなかったのに、体のあっちこっちが痛む。年をとっても「生涯現役で」みたいに鼓舞しているところもあるのですが、こんなに体が痛くなっているのに大丈夫かなと思うのが、まずあります。そして、先ほどすずめさんがおっしゃった収入についてですが、私はフリーランスみたいな形での仕事と、非正規雇用の非常勤で働くという、二足のわらじを履いているので、まだ定期的な収入は確保できているのですが、非正規であるがゆえになかなか増えていきません。今は節約志向の生活で何とか自衛していますが、どこまでそれが続けられるのかという不安と、やはり収入が増えていかないので、これから年老いて仕事ができなくなってしまった時に「大丈夫なんかなあ？」という不安があります。あと、昨年、母が亡くなって、来年の頭で 80 になる父と私より 2 つ上の姉が実家にいるのですが、その 2 人に何かあったらいろいろ大変になるなあ、と、すごく不安に思っています。

小：皆さん、悩みの方が多いのは、思うところがたくさんあるということで。書き上げていっ

ただけでも、十分重なるところが多いようです。出された意見を見て「もっと話したい、他の人の意見を聞いてみたい」というところはありますか？

や：公的助成の部分については、独身者にも何かあってもいいんじゃないかな。政治家の中にも独身者を認めない人もいるじゃないですか、少子高齢化時代だから。

小：自己責任みたいなね。

全員：うん、そうそう。

ま：逆に「独身税取ろうか」みたいなことも言われてると聞いたことがあるし、今後、シングルにはすごく世知辛い世の中になりそうだなと思います。

す：確かに子どもを産み育てるのって大切だと思うんですけど、今のこの社会が独身の人を増やしたんじゃないの？っていう。

全員：うんうん。

す：あまり他人のせいにしちゃいけないのかもしれないけど、けっこう増えてますよね、今どきの若い人の独身。私らの時だったら 30 までに結婚していない人って 1 割くらいしかいなかったと思うんですよ。その 1 割に自分が入っていることにちょっとぐったりしてたんですけど、今はけっこう多いですよ。

小：そうですね。

す：だから、こっちだけの責任みたいに言われても、「そういう社会にしたの、誰よ？」と言いたくなるんですけどね。

小：さっき、30 代の時と 40 代になってからでは少し考え方が変わったみたいに言われていた方もいましたけど、20~30 代の時に思っていた自分と、今の自分というのは何が違いますか？肯定的なものも否定的なものもあるでしょうが、一番変わったと思うのはどんなところですか？私なんか、意外と精神年齢は 14 から変わってなくて、どこか大人になり切れない感もあるのですが。今、40 オーバーで 50 代にかかろうとしている自分をどう思われますか？

や：30 代の時は、出産年齢の上限を考えると、子どもが欲しいなと思って婚活を頑張った時期もありましたけど、40 過ぎて自分の体の衰えを感じるようになり、そのあたりの縛りがなくなったのは、自分の中で生きやすいくかなと。妹がけっこう早くに結婚して子どもを産んでいて、年に何回か会うと家族っていいなと思ったりもしましたが、生きやすさというと、自分の中では 40 代の方が生きやすい。自分で自分を縛っていたところがあったの

かなと。「子どもが産めなかったら、あかんのちゃうか」とか「親に孫の顔を見せてやろう」とか。

小：うんうん。他の方は何かありますか？

な：私は 20~30 代の時って、老後とかそういう不安って他人事で、自分事としてとらえていなかったですね。「たぶん結婚するだろうな」という期待の方が大きくて。それが 40 代に突入すると、「あれ、いよいよ 1 人で生きていくかもな」と現実味を帯びてきたら、他人事だった老後の不安がようやく自分事になってきました。40 代でというのは遅いかもしれませんが…、現実味を帯びてきたというか。「このまま独身なんだろうか」ということを受け入れてきているというか。

小：そこは微妙なところですね。まだゼロじゃないけど、8 割 9 割みたいな。

な：いよいよ現実になってきたぞ、みたいな。

小：ほしちゃん、何かありますか？

ほ：まったく同じで、40 代前半くらいまでは私も「子どもが…」みたいな感じで婚活をしていましたが、そこを過ぎてくると、もう結婚というのが「ないこと」みたいな感じになってきました。同年代の友達との結婚話とか恋愛話は一切なし。「そんなのない」みたいになって、それより「将来 1 人で大丈夫か？」みたいなことを考えるようになりました。

小：じゃあ、逆にという言い方も変かもしれませんが、先の話と過去の振り返りをして、今の暮らしの楽しみはどうですか？まぐまさんは、音楽活動をされているということですが、仕事以外の楽しみもないとやっぱりつまらないというか、そういうものがあると、生活が豊かになるような気がします。仕事や暮らしの中で、プラスアルファの余暇など、今を楽しむ感じって何かありますか？

す：40 代は、まだ元気だったと思うんです。精神的にも肉体的にも元気で、まだまだ皆さん頑張ったら大丈夫。こんなこと言ったらなんですが、本当に、更年期に入ったら気力体力ががたっと落ちます。基本的に「私はもう女じゃなくなったんだな」というのが、ものすごくショックとまではいかないけど、まずそこで結婚はありえない。男の人にこびて、きれいな格好をしようという気ももう起こらない。本当に女がなくなったというのもあるんですけど、気力がすごくなくなるので、気が付いたら趣味が何もなくなっているというか、楽しいものがない。それが、日々生きていて空しいです。個人的なことかもしれない

けど、とにかく体力と精神の衰えが顕著です。
小：なるほど。それは一時的なものなのか、続いていくのか、分からないですね。更年期過ぎたら逆に元気になる人もいて、うちの母親なんか、その時期はしんどかったけど、終わったらわーっと元気になっていましたから、個人差はあるでしょうけれど、やっぱり気力体力がないと思ってしまうと、しんどいでしょうね。他の方どうですか？

や：私は40代になってから山登りのサークルに入って、気分転換に近場の山に登っていたのですが、週末空いていて、時間的に余裕があるという、独身者しか来ないですよ。「山ガール」が流行りだす前でしたが、私は楽しく参加していました。だんだん人間関係が見えてくるようになると、何かプライベートまで人間関係まで気を遣うのがしんどくなってきました。怪我をしたこともあって、今はもう行っていないですけど。私も、何かめんどくさくなってきているのかなと。家でごろごろするのが一番。

全員：（笑）

ま：基本的にそれが一番ですよ。

小：一方で、孤立じゃないけど、人とのつながりが薄いことへの抵抗感とか危機感みたいなものもポロポロ意見として出ていましたね。やっぱり、そのあたりは難しいですね。友達と会っても空しいような気持ちになれば、会う回数も減るかもしれないし、自分から声をかけていたものが、向こうから言われなかったら声をかけなくなる、行かなくなるとなってきたら、それでも回数が減っていくし。1人でいることは確かに楽しいけど、それでいいのか？ 自由で気楽だけど、それが一方で不安になってしまうというのは、どういうことなんですかね。

な：昔は、友達とスケジュールを合わせてイベントに行っていたんですけど、40代以降は1人で参加するようになったり。習い事も、前は友達と料理教室に行っていたんですけど、今は1人でヨガ教室に行ったりと、1人の趣味、1人でどこかに行くことが増えました。相手とスケジュールを合わせるのがめんどくさい、合わなくなってきて、単独行動が増えました。

小：行った先で出会う人たちとの交流は？

な：その場ではあるんですけど、だからといってヨガ終わりにランチに行ったりとかいうのは、今のところはありません。大人になって、会社以外の友達を作ることの難しさに、今ち

よっと悩んでるじゃないですけど、難しいなと思ったりすることはあります。

小：やっぱりベーシックなところでは、学生時代の友達というのがあるのだけど、何人かの方が言っておられたように、結婚すると疎遠になってしまうし、独身の友達との仲は続くけれども、それも減っていく。職場や職場以外での新しい友達っていますか？

ま：なかなかないですね。最近だったらインターネットとか SNS でつながるというのがありますが、やっぱり1回会った友達に限定しているんで、新しい方と仲良くなるのにはちょっと躊躇してしまうところがあります。

小：うーん、躊躇しちゃいますか。他の方どうですか？ 今どきの若い人たちは、SNS でネットワークを広げているけれど、私なんかスマホも持っていないガラケーの人なんで、違う世代の人なんやなと思っちゃいますけどね。

ほ：私も、SNS は苦手という意識があります。そういうのをやれば、もっと世界が広がっていくのかなと思うけど、自分からどこかに出かけて友達を作ることがないと、友達関係が広がっていかないので、そういう意味では SNS をやった方がいいのかなと思ったりもするのですが、苦手なことをやってまで…という気持ちもあります。そこがちょっと難しいかなと思います。

小：皆さんは、フェイスブックとかインスタグラムとかツイッターとか、やっておられますか？

す：フェイスブックをしていますが、つながっているのは、ほぼほぼ知り合いだけです。いろいろなイベントがあるから、たぶんそれに参加したらいいと思うんですね。私も昔、自営業を始めた頃は、異業種交流会に行って、いろいろな人と知り合っていたのですが、最近は本当に気力がなくなっているんで、知らない人と会って、仲を構築して、信頼関係を築いて、「また会いましょうね」みたいなのが煩わしくて。イベント自体は面白くても、「知らない人の中に入っていくのか、めんどくさいな」と思うと、「もう行かない」というところを選択しちゃうんですよ。なんだろう、どんどんひきこもり状態みたいな感じですかね。

小：だからといって、それでいいんだとも思っていないところもあったりする。

す：そうそう。しょせん、そんなところで友達ができたって長続きしないよね、と思っているところもあるんです。

小：ああ、複雑ですね。

す：そういうところで知り合う人は何十人もいるけど、その中で気が合って何年もつながるのは1人か2人だなと思うと、割が悪いというかね。それでしんどい思いして行って、しんどいのになニコニコして積極的にしゃべりかけるなんて、めんどくさいわと思っちゃって。

小：なるほどね。

ま：私は幸い、音楽をやっていて、時々ライブもするのですが、ライブを聞きに来てくれたお客さんが知り合いを連れて来てくれることもあるし、他のグループの音楽を聞きに来た人の中に「良かったわ」と声をかけてくれる人もいるのですが、そういう方たちと今後、交流していくかと考えると、多分その1回きりじゃないかと。連絡先を教えて下さる方もいらっしゃるけど、こちらから「次はいつどこでライブします」と連絡を送りはしますけど、その後のキャッチボールはなかなかできにくいかなと感じますね。出会いやすい機会はあると思うんですが。

小：そこから個人的な関係性にまで深まっていくかというところ…。

ま：やはり、なかなかそこまでは。たぶん1回会ったくらいでは難しいですね。たとえば同じ場所で2回くらい行ってライブをして、続けてお目にかかることがあれば、もうちょっと入っていけるかなと思うのですが、1回会ってその場では「良かったよ」と言ってもらって、その場ではけっこう意気投合して話が弾むのですが、そこから先、2回目、3回目の交流はなかなか続かない感じはあります。

小：なるほど。いろいろ出てきましたが、もうひとつシートが用意してあります。そういう「今」を踏まえて、10年後の自分を想像してみましようというシートです。仕事のこと、暮らしのこと、人間関係のこと、10年後にこんなふうになっていたらいいなということを、左側の「理想」のところに書いて下さい。右側は書きづらいかもしれないので、時間が来たら切って、皆さんとの話し合いの中で出していてもいいかなと思うので、「理想」の部分を中心に、5分くらいでお願いします。

②ワークシート2の記入 (5分程度)

小：途中かもしれませんが、またワークシートの内容を出していただきたいと思います。じゃあ順番に、今度はほしちゃんからお願い

します。

ほ：10年後の想像があまりできなくて、思いっかなかったんですけども、理想はやっぱり健康で病気にならない。10年後もたぶん独身だと思うので、将来のことについていろいろ話せる友人がいればいいなというのと、今は山登りなどの趣味があるのですが、もっと何か新たな趣味が増えていけばいいなと思います。

小：理想はそんなところですか？

ほ：そうですね。なかなかイメージがわかなくて…。

小：もちろん大丈夫ですよ。じゃあ、なおさん、理想の方にどんなことを書かれたか教えてください。

な：はい。独身単身世帯とかが集える何か、自分自身のことですか？

小：はい。こんな自分でありたい。

な：私はまず、共に暮らすパートナーが欲しいなと思いました。子どもを育てるのはもう無理なので、どこか遊びに行った時に「楽しいね」と言い合えるパートナーがいたらうれしいなと思いました。また、10年後もまだ働ける場所があったらいいなと思いました。中高年が働き続けるのって、なかなか難しいのかなと思って。

小：そんなところですか。はい、ありがとうございます。じゃあ、すずめさん。

す：今の仕事を続けているとしたら、外に出てやる仕事と在宅でできる仕事があるのですが、どちらかという体力的な衰えが来ていると思うので、在宅でできる仕事が増えたらいいなという感じがあります。あとは、健康とか体力というのは、少なくとも現状維持したいです。たぶん、そうはならないだろうとは思いますが。あと、今もそうなんですけど、自分の存在意義というものは何なんだろうとすごく思っていて、だから生きがいを持てるようなもの、それは仕事であるのか何かの活動なのか、もしくはペットを飼うことかもしれないですけども、自分自身が生きがいを感じられるものを何か持っておきたいなと思います。あと、不安を感じた時に相談できる場所、場があること。漠然とお金のことや介護のことなんか、微妙に分からなくて。同じ年代の人と「介護ってどうよ？」という話をして、みんなも分からないんですよ。そういう時、行政とかに相談に行けばいいんでしょうけど、実際に自分が直面しているわけじゃなくて、ただの漠然とした不安じゃない

ですか。知識として知っておきたいからといって教えてくれるわけじゃないと思うので、何かそういった将来の不安を相談できる場みたいなものがあるといいのかなと思いました。以上です。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、まぐまんさん。

ま：すずめさんがおっしゃっていたみたいに、健康もそうですし、収入的な部分も含めてなんですけども、今と同じ、現状維持ができていますか。もしくは、少しでもいいから良くなってほしいなというのが理想です。あと、なおさんがおっしゃっていたことにもつながるんですが、私は多分、この後も 10 年後も、シングルかなと思っています。なおさんがおっしゃっている「パートナー」というのは、もしかしたら男性という可能性もあると思うんですが、私の場合は、けっこう今までいろんな苦勞をしてきたこともあって、たぶんこの後も 1 人でいることが確定じゃないかなと思っています。ですから、気の合うシングルの女友達とホームシェアして暮らす、みたいなこともあったら面白いかなと思います。本当に理想を言い出したらきりがありませんけども、実家の家族も健康で長生きしてくれていたら、介護とかの負担もあまり感じずに過ごせているかなということ。あとやっぱり、シングルの女性も安心して老後を暮らしていける世の中になってほしいな、というのがあります。以上です。

小：はい、ありがとうございます。じゃあ、やまぴーさん。

や：私も健康が一番で、体も心も健康でいたいなというのと、あと、なおさんと重なるんですけど、私も頼れるパートナー、結婚とかいう枠にとらわれず、困った時とかしんどい時に支えてくれる、まあそんな都合のいい人はいないとは思いますが。

全員：(笑)

や：いればいいなと。あとは、仕事を続けられていることと。今つながっている友達と 10 年後もつながっていられたらいいなというのがあります。あと、生きがいを持って、仕事以外で活動できる場所ができたらいいなと思います。

小：はい、ありがとうございます。今、ひととおり話を聞いてみて、自分は書いてなかったけどやっぱりそう思うとか、ここは大事なかなというところ何かありますか？

す：シングル友人とのシェアハウスというのは、

私も常にすごく言っているんですが、シェアハウスはダメなんです。玄関も別にしておきたいので。マンション 1 棟をシェアするみたいな、そんなんがいいよねという感じで、実現に向けて実際に話しようかと言っていたこともあったんですけど、そこはやっぱり温度差がすごくありました。若くても「その話、絶対乗りたい」という人もいれば、私より年上でもあまりピンと来ていない人もいて、そのへんは夢の話で終わり、みたいな。でも正直、そういうところがあればすぐにでも移り住みたい気分はすごくあります。まったく一緒というのは、今まで人と暮らしたことがないので、たぶんきつくて無理だと思います。玄関は別で、でもいつでも隣に何とかさんがいて、あっちには何とかさんがいてみたいな感じで、ちょっと集える部屋みたいなものもあって、というのが…。

全員：いいですね。

す：「そういえばあの、最近見ないけど」と行ってみたら、倒れていて発見してもらえとかね。そんなんいいよねって、話をしていますけどね。

小：他の方はどうですか？

や：シェアハウスまではいなくても、「お互いを緊急連絡先にさせて」という約束はしています。何かあったら家に来てな、とか。

小：自分でつくる保険じゃないけど、何かそういうのって要るなって思いますよね。パートナー問題は微妙ですね、同性なのか、異性なのかとかいうことも含めてですけどね。じゃあ、「あったらいいコト、モノ、人、情報」の枠に何か書けている人っています？ なおさん、何か書いておられますけど。

な：今、思いついたんですけど、健康って大事なところから、たとえば入院や手術することになった時、同意書にサインする問題ってちらほら聞くんですよ。

全員：あー、はいはい。

な：家族以外はダメとかって聞いたりすると、私はきょうだいはいるんですが、離れて暮らしていて、頼める人がいなかったらどうしたらいいのかなという不安。だから、その同意書縛りをゆるくしてほしいなって思ったんですね。たとえば、気の許せる友達とかでも OK ということであれば、すごく心が楽になるのになと、今ちょっと思ったんです。

小：ああ、他にもありますか？

な：集えるカフェとか図書館とかが充実していたら、って思うんです。私の暮らしている周り

だけでいうと、豊中って集えるカフェが駅前に少ないし、図書館があまり居心地がいいものでないので、中高年になって気軽に立ち寄れる場所が、もっと充実したらうれしいなと思いました。

小：「気軽に」というのは、具体的にどんな感じですか？ 逆にいうと、すてっぷにもライブラリーがありますけど、立ち寄りにくいとしたら、どういうところでしょうか？

な：飲食禁止とか、おしゃべりしづらい、するようなスペースがなくてシーンとしているとか。1人で行って、1人で本を読むだけで終わってしまうから、ちょっとしたおしゃべりコーナーというかカフェというか、気軽な感じがしないんですね。

小：お話ができるという…。

な：人の気配が感じられるような、活気があまり…。難しいんですけど、行っても誰とも話さずに、本だけ読んで帰ってきたとか。

小：というのは、ちょっと違うと。

な：お茶でも飲みながら、人の気配を感じてゆっくりできる場所って少ないなと思ったので。

小：なるほど。じゃあ、すずめさん、何か書いていることありますか？

す：先ほどもちょっとシェアハウスみたいな話をしましたが、実際、何人かで本当にやろうかみたいな話になったんです。なんだけども、じゃあ立ち上げのための話し合いというか、決起会やろうかとなった時に、来ないんですよ。それで「ああ無理だね」ということで結局、お流れになったんです。それは、私の知り合いの小さい人間関係の中だから余計にそうだと思うんですね。知りたいことは、いっぱいあるんですよ。たとえば老人ホームに入るにはどうすればいいのかとか、どういうところがいいのかとか。そういうことを、講師の人から一方的にレクチャーを受けるのもいいんだけど、それで「はい話を聞きました、じゃあ解散」になってしまうと、あまり意味ないなと思うんですね。こんな感じで、みんなが集って、先生の話聞きながら、意見交換して仲良くなって、その中で話が発展して仲のいい人とシェアハウスするようになるかもしれないし、そうでなくても、いろんなことを話し合ったり、ちょっとだけ先輩の人を招いて「それについてはそんなに悩むことないわよ」と話を聞くとかね。そんな場があればいいんじゃないかな、という気がしています。自分ができなかったことなので、もうちょっとたくさんの人が集まれるような、すて

っぷのようなところが、最初の出だし、スタートだけでも企画してくれて、あとは任せられるようになったら一番いいパターンだと思うんですけど。そんな感じがあります。

小：すずめさんが、経験されたからこそ言ってもらえたことだったと思います。まぐまさん、どうですか。

ま：私、このところは真っ白なんですけど、今、すずめさんがおっしゃってたみたいに、やっぱり意見交換できたり、みなさんそれぞれに自分の経験を、こういう場所で腹を割って話せたりする場があったら、それはそれで楽しいだろうし、皆さんの参考にもなるのではないかと、今、お話を聞いていて思いました。たとえば、私は去年、母を亡くしたのですが、それまで介護サービスを使って実家で介護していましたので、その時の経験談を聞いてもらえるような。インターネットのブログなんかで「私はこんな大きな病気をして、こんなふうに闘病しました」みたいな話をつぶさに公開されている人もおられますけど、そこまで見ず知らずの人にオープンにするのも抵抗があります。だから、限られた条件で集まれた方との情報交換なら、やりやすいのではないかと思います。

小：ありがとうございます。じゃあ、やまびーさんどうですか。

や：私も今、聞いていて思ったのですが、子どもを預けてしゃべれる「子育てサロン」ってありますよね？ そんなののシングルバージョンみたいなのがあったら。女性限定とかじゃなくて、年齢で区切って、語り合いませんか、みたいな。金曜日の6時半からとか。

全員：(笑)

小：具体的にありがとうございます。

や：こうやって10人くらいでいろんな思いとかを話しながら、ちょっと飲みに行きましょか、みたいな、きっかけがあればつながれるというか。やっぱりネット上は見えないから怖いんですけど、顔を合わせてたら、考えてることとか、だいたい分かりますよね、安心感が生まれるというか。そういうのを月に2回くらい、企画していただけたら。

小：男子もOKですか？

や：性別関係なくした方が。もしかしたら、男性の方が生きにくいんじゃないかと思ったりします。

ま：男女誰でもOKにした方が、逆にいろいろ出会えるというか。

す：男女共同参画的で、いいんじゃないですか。

小：まあ、そうですね。そういうのも一部にはありますが。年齢の区切りというのは、たとえば「40代」とか「40～50代」みたいな感じですか？

や：今日みたいな区切りでもいいですが、年齢が一緒の方が、悩みが一緒かなと思うんです。たぶん来週の「39歳以下」の人たちのインタビューでは、全然違う意見が出ると思うんです。「結婚したいです」とか。老後の不安とか、まだ絶対話題にならないと思うし。

小：「60代」とか「70代」とかでなく、やっぱり自分プラスマイナス10とか、プラスマイナス5くらいの方がいい？

や：上限を決めなくてもいいかもしれませんね。

小：40オーバーくらいの方が、きり的にいいのかなという感じがすると。はい、ありがとうございます。ほしちゃん、どうですか。

ほ：私もあまり書いていないんですけど、今、お話を聞いていて、けっこう皆さん同じような不安を抱えていることが共有できたということもあるので、今回のグループインタビューのような、気軽に集える場があればいいなと。やまびーさんがおっしゃったような金曜日の6時半とか…。

全員：（笑）

小：今、月末の金曜日ってなんていうんでしたっけ？ プレミアム・フライデーみたいな感じ？

全員：（笑）

ほ：同じ年代の方が参加して、悩みだけでなく、いろいろな話ができる場があればいいかなと思いました。将来の介護のこととか経験談として聞かせてもらえればありがたいですし、シェアハウスの話も、そういう生き方もあるのかと参考になりますし。今回のこの場だけでもすごく素晴らしい場で、参加させてもらって良かったと思っていますので、そういうのが定期的にあれば、そしていろいろな方が参加できるといいかなと思います。

小：なるほど。あと、暮らしの面で、健康の話は少し出てきていましたが、衣食住や、地域との関わりについてはどうでしょうか。先ほど、地域との関係が薄いことに対する不安が挙がっていましたが、「隣近所の人とつながってないから、私は地域につながってない」じゃなくて、自分が住んでいるところだけが「地域」ではなくて、たとえば「豊中市」とか「北摂」くらいまで地域のくくりを広げていくと、もう少し違う展開があるのか。それでもやはり「隣近所と仲良くしたい」と思い

ますか？ 地域へのこだわりは、どうですか？

ま：私は千里ニュータウンに住んでいるのですが、かなり建て替えが進んでいて、若い世代の方が住まわれるようになってきています。私の住まいは、築40年以上の団地の一室なので、周りは年老いている家庭が多そうなのですが、どんな方が住んでおられるのか、まったく見えないんです。もしこれから災害が起きた時、絶対にその中で緊急的なコミュニティを作って助け合わないといけなくなると思うと「大丈夫なん？」と。やはり地域の行事とかにも、物おじせずに顔を出しておいた方がいいのかなと思う時があります。

小：なるほど。私も今住んでいる地域との関わりは、お祭りをしていたら「ちょっと行こうかな」くらいのもので、誰かとつながっているわけでもありません。そのあたり、地域とどんなふうな関係を作っていったらいいのか、ご意見いかがですか？

や：私は、自治会に入っていないんです。入ったら、多分つながるだろうと思うんですけど、働きながら会合に出られるのかとか、自治会長なんかになったらできるのかなとか考えると、入っていてもいなくても変わらないかなと思って、今は入っていません。それこそ家庭単位かなと思って。

小：今日は仕事の話は、ばらばらとは出てきましたが、今の雇用形態や賃金、長時間労働でしんどいといった話はあまり出てきませんでした。仕事について、何か思っていることがありますか？

す：今の会社って、独身でもそんな居づらくないものなんですか？ 私らの頃は、30までに辞めなかったら、どんだけうるさく言われたか。結構、うっとうしかったんですけど、独身女性が増えてるんですかね？ あまり言ったらパワハラとかセクハラとかになる？

や：それはある。若い時は「まだ結婚せえへんのか」とか、上司が「いい人おんねんけど」とか。今は一切そんなのはないです。

す：別にそれで意地悪をされるということもないんですね。

や：減っては来ているんじゃないですかね。

全員：（笑）

小：まぐまさんは、非正規の仕事もされているとのことでしたが、一般的にいうと、日本は女性労働者に占める非正規割合が6割近くに増えてきています。非正規だと収入が少なく、1人で生活していくのが厳しいですが、

非正規の働き方について…。

ま：そうですね、私は今の職場にお世話になって 10 年以上経過しているので、もちろんその経験値というのもあってなんですけど、正職員の方と比べて遜色ない仕事内容を任されています。それでもやはり、正職員の人ががっばり…ボーナスをもらっていらっしゃるのを見ると、「ああ、いいなあ」と思ってしまいますよね。我々にはそれはない。昇給があっても…。

小：何十円単位とか？

ま：いや、千円単位くらいでは上がるんですけど、結局、社会保障で引かれるお金も増えるから、年々減っているような感じに見えてしまってます。そこは正直、「この野郎！」と思う時はあります(笑)。かといって、フリーランスの仕事も、体力的に難しいところもあって、あまりガツガツ増やすこともできない。非正規の仕事が途切れた時の保険みたいなところでもあるので。今は、それこそ本当にボーナスが少しでもいいからもらえるようになったらいいとは思いますが、制度上そういうことが難しい職場なので、そういう意味では社会保障の負担がもう少し軽くなって、手取りが増えてくれるだけでも暮らしが安定するのになあとと思う時もあります。

小：今の日本では、一定の年齢以上になった時に正規で雇用されるのは難しく、会社がつぶれたり、正規職だったとしてもいろいろな事情で辞めたりすると、次に働こうとしても非正規になる可能性が非常に高い。非正規の場合、1人で生活を成り立たせるのが厳しいという現状が、シングル女性の生きづらさの大きな背景になっているのかなと思います。生きづらさをなくすためには、正規で働ける働き方を増やしていくか、非正規でも最低賃金を上げて、社会保障の負担を軽くするか、私が思い浮かぶのはこの 2 パターンくらいなのですが。どんな社会になったら、女性がどんな働き方ができるようになったらいいと思いますか？ フリーランスの方はまた話が違うでしょうが。

ま：今、国や政府が言っている「女性の働き方改革」というのは、すごくキラキラしていて、理想的な部分が大きいような気がする。現実にはそうじゃなくて、もっと地道で苦しくて大変なのに、それがすくい切れていないような気がする。そんなキラキラするリーダー的なところに立つ人が増えるよりも、非正規で働いている人がもっと安心して暮らせるため

の政策が出てこないかな、っていう。

な：雑誌で取り上げられるような「女性の働き方のモデル」に出てくる人って、結婚しながら働いている。

全員：うんうん。ああ、そうですね。

な：正社員の管理職の女性が出てきて、一方で子どもも育てていて、そんな人ばかり。でも、世の中そんな人ばかりじゃなくて、実は私、会社を 2 か月前に退職したばかりなんです。当時は契約社員でしたが、仕事内容は、ほぼ正社員と変わりませんでした。でも、リーダー、管理職になれるのは正社員に限定されているし、何かプロジェクトに関わらせてもらっても、正社員じゃないのでリーダーにはなれないんですよ。何か、サブ的なところばかりなんですね。チャンスもないし、そういうところですごく不満を感じていました。非正規だけど活躍している女性のモデルが、少ない。

ま：少ないですね。あったら知りたいです。

な：政府は、正社員で家庭も持っていて両立させている人のことばかり話しているけど、何か違うのになあと思ったり。

小：他の方もうなずいておられますが、どうですか？

や：私は正規なんですけど、非正規の人も仕事内容は一緒なのに、同じ給料じゃなくて年収に違いがあるというのはおかしいですね。それなら仕事内容を変えたらいいのになあ、と思うけど。企業がおいしいところ取りするような世の中になってきているような気がします。すごく格差を感じる。

③まとめと感想

小：そろそろ終わりの時間に近づきました。皆さんの意見をお聞きしてみて、バラバラという感じではなく、やっぱり共通点が非常に多い。現状についてもそうだし、10 年後についても、問題意識や関心が近いところでいろいろな話が出ました。じゃあ具体的にどう行動するのかというのは、これからの話になるかと思いますが、今日、話をしたことをきっかけに、それを深めていけたらと思います。仕事については、あまり出てこなかったのですが、最後に少し振らせてもらいましたが、やはり生きていくためにお金は必要で、基本的には自分で稼いだお金で生活するというところの問題と、働けなくなった時に年金などフォローのための体制がどうなっているのかとい

うのも大事なところですよ。こんなところでいったん終わらせていただきますが、最後に、差し支えない範囲で率直な感想を一言ずつお願いします。正直言ってがっかりだったとか、来たけどあんまりだったということでもかまいません。元に戻って、すずめさんから。

す：いろいろな話が聞けて良かった、というのが正直なところですね。まさにこういうのをやりたかったっていう感じなんです。だけど、友達と集まった時は最初はそのつもりでも、だいたい飲みながらやるので、5分以内でなし崩し的に終わっちゃう感じだから、そんなきちんとした話にならないんですね。皆さんの意見もきちんと聞けたし、悩みも似たようなところもあるんだろうなと聞けて分かって、「自分だけじゃない」とちょっとほっとしたところもありで、良かったと思います。ありがとうございます。

小：ありがとうございます。じゃあ、まぐまさん。

ま：私は、あまり深く考えずに前進していけるタイプではあるんですけども、1人になった時に、ふと「この先もし家族がいなくなったら…」とか、いろいろ思い悩むことが少しずつ増えてきたということもあったので、私以外の同じような条件で頑張っている皆さんのご意見を聞くことができて、私も「自分だけじゃなかった」と、ほっとしました。こういう機会を与えてもらえて、良かったなと思います。ありがとうございます。

小：ありがとうございます。じゃあ、やまびーさん。

や：私も、本当に今日来て良かったなと思いました。職場とかだったら、働きぶりのイメージから、いろんなことを考えられているのかなと思って、なかなか本音が言えないんですけども、今日は自分自身が「こんなことを思っているのか」と気づくことができましたし、今日出会った方と、また連続講座みたいな。

全員：(笑)

や：本当に、今日は来て良かったなと思っています。ありがとうございます。

小：ありがとうございます。ほしちゃん。

ほ：私も、本当に今日来て良かったということしかなかったです。いろいろ不安に思っていたことを皆さんと共有できたのもそうですし、まったく自分で考えもしなかった「こういう不安もあるな」ということに気づかされたこともありますし、今まで漠然と「将来どうなんだろう？」と考えたことはあるんですけど、具体的に10年後を想像してみたことはなかつ

たので、すごく勉強になりました。ありがとうございます。

小：ありがとうございます。じゃあ、なおさん。

な：私も今日、この場にいられてすごく良かったなと思いました。1人で不安に思っていた部分が、私だけじゃなく、皆さんも同じように感じておられて、すごく似たところとか共感できる場所があって安心しました。あと、すてっぷさんが問題意識を持って、私のような人に目を向けて下さり、こういう機会を作ってくれたことに救われたとか良かったなという思いです。また、皆さんと飲みに行ってみたいなと思いました。ありがとうございます。

小：はい、今日は本当に貴重な時間を参加していただいて、進行にもご協力いただきありがとうございます。

④今後の予定などについて説明（割愛）

以上

■グループインタビュー時に使用したワークシート原紙

①25～39 歳グループ

2017/8/27(日) 10:30～12:30
【25～39歳】

<ニックネーム: >

■あなたの現状について(該当項目に○をつけてください)

①雇用形態…正規雇用、非正規雇用(契約・嘱託、非常勤、派遣、パート・アルバイト、その他< >)、自営・フリーランス、無職、その他< >

②無職以外の人:現在の仕事の勤続年数…1年未満、1年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上15年未満、20年以上
平均的な労働時間の状況…1日()時間、週()日、一週間の合計()時間

③同居の家族の有無…一人暮らし、同居者あり(親・きょうだい・祖父母・その他< >)

【シート1】未婚女性である、今の自分(歳)について思うこと

仕事(雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など) 暮らし(健康、衣食住、地域との関わり、趣味など) 人間関係(家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など) など	
肯定的・長所・ポジティブ・満足	否定的・短所・ネガティブ・不満・不安・悩み

2017/8/27(日) 10:30～12:30
【25～34歳】

<ニックネーム: >

【シート2】10年後の自分(歳)を想像してみる

仕事(雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など) 暮らし(健康、衣食住、地域との関わり、趣味など) 人間関係(家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など) など	
理想	現実を理想に近づけるのにあったらいいコト・モノ・ヒトなど

②40～54 歳グループ用

2017/8/20(日)10:30～12:30

【40～54歳】

<ニックネーム: >

■あなたの現状について(該当項目に○をつけてください)

- ①雇用形態…正規雇用、非正規雇用(契約・嘱託、非常勤、派遣、パート・アルバイト、その他< >)、自営・フリーランス、無職、その他< >
- ②無職以外の人:現在の仕事の勤続年数…1年未満、1年以上5年未満、5年以上10年未満、10年以上15年未満、20年以上
平均的な労働時間の状況…1日()時間、週()日、一週間の合計()時間
- ③同居の家族の有無…一人暮らし、同居者あり(親・きょうだい・祖父母・その他< >)

【シート1】未婚女性である、今の自分(歳)について思うこと

仕事(雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など) 暮らし(健康、衣食住、地域との関わり、趣味など) 人間関係(家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など)	
肯定的・長所・ポジティブ・満足	否定的・短所・ネガティブ・不満・不安・悩み

2017/8/20(日)10:30～12:30

【40～54歳】

<ニックネーム: >

【シート2】10年後の自分(歳)を想像してみる

仕事(雇用形態、賃金、労働時間、業務内容など) 暮らし(健康、衣食住、地域との関わり、趣味など) 人間関係(家族との関係、職場での関係、友達、地域での関係など)	
理想	現実を理想に近づけるのにあったらいいコト・モノ・ヒトなど

■グループインタビュー協力者事前確認シート原紙

①25～39 歳グループ

2017 年 8 月 調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」 25～39 歳のグループインタビューにご協力いただく方へ（事前確認） この度は、すてっぷの調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」のグループインタビューに当事者として関心をお持ちくださり、ありがとうございます。 つきましては、グループインタビューの詳細を説明を受けていただき、改めて協力参加の意思を確認するものです。 以下の説明と確認事項等を十分ご理解納得いただいたうえで、グループインタビューにご協力ください。 1) 調査の趣旨と目的 日本では、女性は一応年齢に達すれば結婚するのが当たり前だと思われています。結婚するまでは父親の収入に頼り、結婚後は夫の収入に頼り、夫の死後は息子や福祉に頼る女性が、多数派でした。しかし、近年では結婚平均年齢の高齢化や生涯未婚率の上昇が進み、結婚せず子どもも持たない生き方をする女性が増えつつあります。子どももいない未婚女性の高齢化と増加は、これまでになかった新たな課題が生じる可能性があります。 調査目的は、子どももいない未婚女性が単身のままで生きるのに、どのような課題があるのかを発見することです。今回の調査では、未婚女性を 2 つの年齢階層（25～39 歳・40～54 歳）に区分し、最大 5 人を 1 グループとしてインタビューを行い、そこで出た意見から課題の発見を試みます。 2) グループインタビューの流れ ①説明と同意について 文書および口頭でグループインタビューの詳細について説明します。そのうえで、協力に同意された方には、後日、グループインタビュー実施についてご連絡します。 ②25～39 歳のグループインタビューの実施について 2017 年 8 月 27 日（日）10:30～12:30、すてっぷが貸室にて、グループインタビュー（1 回のみに参加していただきます）。 グループインタビューでは、仮名を使用し、言いたくないことを無理に言う必要はありません。第三者に知られても差し支えない範囲内で意見を述べてください。 協力者には、グループインタビュー終了後に、謝品として図書カード（1000 円分）をお渡しいたします。 ③グループインタビューの結果について グループインタビュー結果については、報告書としてまとめます（2018 年 3 月末予定）。完成した報告書は、後日、協力者の方に送付いたします。 3) グループインタビューに参加いただくための条件 このグループインタビューには、下記条件を満たす人の参加を希望します。 ①現在、豊中市内に在住もしくは在勤である ②25～39 歳の子どももいない未婚女性 4) グループインタビューへの参加とその取り消しについて このグループインタビューへの参加は、あなたの自由意志によるもので、あなたの意思を尊重して行われます。説明を聞かれたうえで、参加しても良いと思われる場合には、同意の意思をすてっぷに伝え、あなたとすてっぷの両者に記録が残るように同意の意思を文書に残します。 また、あなたはいずれもグループインタビューへの参加を撤回できます。参加を取り止めた場合	合には、下記の担当者に申し出てください。あなたがグループインタビューに参加しなかったことや途中で参加を取りやめることで、あなたが不利益になることは一切ありません。 5) 個人情報の保護について ①個人情報の利用について 個人情報については、「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査のための収集」および「すてっぷが主催講座の運営や募集案内」の目的においてのみ使用し、他の目的では一切使用しません。 ②情報の開示・公表時の個人情報について グループインタビューでの発言は、第三者に開示できるものとします。また、報告書などで公表される場合がありますが、個人情報に関わる情報は一切使用しません。 6) グループインタビューの責任者の名前・連絡先 責任者：一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団 事務局長 西村寿子 問合せ先：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ （指定管理者：一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団） 事業課講座担当 小河洋子 電話 06-6844-9773 e-mail step-9773@toyonaka-step.jp 7) 確認事項 ☐ 調査の趣旨と目的の説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューの流れの説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューへの参加の条件について説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューへの参加とその取り消しについて説明を受け、理解できた。 ☐ 個人情報の保護について説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューの責任者の名前・連絡先について説明を受け、理解できた。 ☐ 以上を十分理解したうえで、グループインタビューへの協力を自らの意思で判断する。 8) 同意の確認（この同意はいつでも撤回できます） 説明を十分理解したうえで、グループインタビューに参加することに同意します。 同意の年月日： 年 月 日 同意者の名前： _____ 9) 撤回の確認 グループインタビューへの参加を撤回します。 撤回の年月日： 年 月 日 撤回者の名前： _____ 【注】この書類は 2 部作成し、参加者としてすてっぷがそれぞれ 1 部ずつ保管する。撤回する場合も、両方の書類への記入をもって有効とする。 以上
---	--

②40～54 歳グループ

この度は、すてっぷの調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」 40～54 歳のグループインタビューにご協力いただき方へ（事前確認） この度は、すてっぷの調査研究事業「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査」のグループインタビューに当事者として関心をお持ちくださり、ありがとうございます。 つきましては、グループインタビューの詳細を説明を受けていただき、改めて協力参加の意思を確認するものです。 以下の説明と確認事項等を十分ご理解納得いただいたうえで、グループインタビューにご協力ください。 1) 調査の趣旨と目的 日本では、女性は一定年齢に達すれば結婚するのが当たり前だと思われています。結婚するまでは父親の収入に頼り、結婚後は夫の収入に頼り、夫の死後は息子や福祉に頼る女性が、多数派でした。しかし、近年では結婚平均年齢の高齢化や生涯未婚率の上昇が進み、結婚せず子どもも持たない生き方をする女性が増えつつあります。子どももいない未婚女性の高齢化と増加は、これまでになかった新たな課題が生じる可能性があります。 調査目的は、子どももいない未婚女性が自身のままで生きるのに、どのような課題があるのかを発見することです。今回の調査では、未婚女性を 2 つの年齢階層（25～39 歳・40～54 歳）に区分し、最大 5 人を 1 グループとしてインタビューを行い、そこで出た意見から課題の発見を試みます。 2) グループインタビューの流れ ①説明と同意について 文書および口頭でグループインタビューの詳細について説明します。そのうえで、協力に同意された方には、後日、グループインタビュー実施についてご連絡します。 ②40～54 歳のグループインタビューの実施について 2017 年 8 月 30 日（日）10:30～12:30、すてっぷ貸室にて、グループインタビュー（1 回のみ）に参加していただきます。 グループインタビューでは、仮名を使用し、言いたくないことを無理に言う必要はありません。第三者に知られても差し支えない範囲内で意見を述べてください。 協力者には、グループインタビュー終了後に、謝品として図書カード（1000 円分）をお渡しいたします。 ③グループインタビューの結果について グループインタビュー結果については、報告書としてまとめます（2018 年 3 月末予定）。完成した報告書は、後日、協力者の方に送付いたします。 3) グループインタビューに参加いただくための条件 このグループインタビューには、下記条件を満たす人の参加を希望します。 ①現在、豊中市内に在住もしくは在勤である ②40～54 歳の子どももいない未婚女性 4) グループインタビューへの参加とその取り消しについて このグループインタビューへの参加は、あなたの自由意志によるもので、あなたの意思を尊重して行われます。説明を聞かれたうえで、参加しても良いと思われれば、同意の意思をすてっぷに伝え、あなたとすてっぷの両者に記録が残るように同意の意思を文書に残します。 また、あなたはいつでもグループインタビューへの参加を撤回できます。参加を取り止めた場合	合には、下記の担当者に申し出てください。あなたがグループインタビューに参加しなかったことや途中で参加をやめることで、あなたが不利益になることは一切ありません。 5) 個人情報の保護について ①個人情報の利用について 個人情報については、「シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査のための収集、および「すてっぷ」主催講座の運営や募集案内」の目的においてのみ使用し、他の目的では一切使用しません。 ②情報の開示・公表時の個人情報について グループインタビューでの発言は、第三者に開示できるものとします。また、報告書などで公表される場合がありますが、個人情報に関わる情報は一切使用しません。 6) グループインタビューの責任者の名前・連絡先 責任者：一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団 事務局長 西村寿子 問合せ先：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ (指定管理者：一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団) 事業課講座担当 小河洋子 電話 06-6844-9773 e-mail step-9773@toyonaka-step.jp 7) 確認事項 ☐ 調査の趣旨と目的の説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューの流れの説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューへの参加の条件について説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューへの参加とその取り消しについて説明を受け、理解できた。 ☐ 個人情報の保護について説明を受け、理解できた。 ☐ グループインタビューの責任者の名前・連絡先について説明を受け、理解できた。 ☐ 以上を十分理解したうえで、グループインタビューへの協力を自らの意思で判断する。 8) 同意の確認（この同意はいつでも撤回できます） 説明を十分理解したうえで、グループインタビューに参加することに同意します。 同意の年月日： 年 月 日 同意者の名前： _____ 9) 撤回の確認 グループインタビューへの参加を撤回します。 撤回の年月日： 年 月 日 撤回者の名前： _____ 【注】 この書類は 2 部作成し、参加者とすてっぷがそれぞれ 1 部ずつ保管する。撤回する場合も、両方の書類への記入をもって有効とする。 以上
--	--

2017年度調査研究事業
女性の労働に関する調査研究事業
シングル女性の仕事と暮らしのニーズ調査

発行年月：2018年3月31日

執筆：女性の労働に関する調査事業研究会

発行者：とよなか男女共同参画推進センター

（指定管理者 一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団）

住所：〒560-0026 大阪府豊中市玉井町 1-1-1-501

電話：06-6844-9773

e-mail：kouza@toyonaka-step.jp